

平成29年度 入賞作品集

「少年の主張」
中学生
話し方大会

「家庭の日」
に関する
作文・図画



広島県の青少年の
マスコット
ゆっぴー

青少年育成の基本指針

(昭和 52 年 6 月 1 日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

は じ め に

「少年の主張」・中学生話し方広島大会 2017（第 39 回「少年の主張」広島県大会，第 51 回中学生話し方大会）を広島県中学校話し方連盟と共催で，平成 29 年 9 月 2 日（土）に開催しました。

今大会には，県内中学校の 52 校から 6,072 編の応募があり，その中から原稿審査を通過した 24 名が，それぞれの主張を力強く発表しました。

全体的な発表内容としては，家庭・学校・地域社会において自ら体験した身近な事柄に気付き，自分の考えを導き出し行動することによって，さらに考えを深めた発表が多かったと思います。

また，発表の仕方としては，静かではあるけれど力強く，聞く人の心に響く話し方ができていました。

この作品集には，発表者全員の顔写真と，その中で特に優秀な成績を修めた 11 人の発表内容を記録しております。

「家庭の日」に関する作文・図画は，本年度も県内の小・中学生を対象に募集を行い，県内の小学校 64 校，中学校 41 校から作文・図画を合せて 2,066 作品の応募がありました。

これらの作品は，日常生活において，命の尊さや愛おしさ，また，親に感謝している心や家族と自分とのかかわり方で感動したことなど，自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

応募作品の中から事前審査を通過した作文 30 作品，図画 389 作品を厳正に審査し，特選作文 3 作品，特選図画 1 作品，入選作文 20 作品，入選図画 5 作品を掲載しております。

この作品集を多くの皆様にご覧いただき，小・中学生の思いを受けとめていただければ幸いです。

終わりに，この事業の実施に当たりご協賛いただいた国際ソロプチミスト広島様，広島清流ライオンズクラブ様，公益財団法人広島青少年文化センター様及び県内 13 ロータリークラブ様並びにご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝を申し上げますとともに，今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 12 月

公益社団法人青少年育成広島県民会議
会 長 上 田 宗 岡

「少年の主張」に関する目次

○第 39 回「少年の主張」広島県大会・第 51 回中学生話し方大会会場風景	1
--	---

○第 39 回「少年の主張」広島県大会・第 51 回中学生話し方大会発表者一覧	2
---	---

○受賞者一覧

広島県知事賞

本当の ^{ゼロ} 0	広島市立城山中学校	3 年	道田 武憲	5
---------------------	-----------	-----	-------------	---

公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞

それでも出来る事	広島市立二葉中学校	3 年	牟田悠一郎	6
----------	-----------	-----	-------------	---

広島県中学校話し方連盟会長賞

小さな勇氣	東広島市立松賀中学校	3 年	平井 綾乃	7
-------	------------	-----	-------------	---

国際ソロプチミスト広島会長賞

夢の階段	北広島町立芸北中学校	3 年	橋本 和花	8
------	------------	-----	-------------	---

広島清流ライオンズクラブ会長賞

簡単に言ってはいけない	広島市立国泰寺中学校	2 年	上田 真央	9
-------------	------------	-----	-------------	---

優 秀 賞

個性を認め合える世界	三次市立三良坂中学校	2 年	田原 茉奈	10
------------	------------	-----	-------------	----

人を人として見る目	広島市立大塚中学校	3 年	川本 絵莉	11
-----------	-----------	-----	-------------	----

生まれ育ったふるさととして	北広島町立豊平中学校	2 年	甲斐さくら	12
---------------	------------	-----	-------------	----

神楽の魅力	安芸高田市立美土里中学校	3 年	佐々木 健	13
-------	--------------	-----	-------------	----

不可能を可能に	三次市立川地中学校	2 年	北村 大翔	14
---------	-----------	-----	-------------	----

保障のないもの	竹原市立賀茂川中学校	2 年	西岡ひめみ	15
---------	------------	-----	-------------	----

○講 評

審査委員長 山本 名嘉子 東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所代表	16
---	----

○第 39 回「少年の主張」広島県大会・第 51 回中学生話し方大会開催要領	18
--	----

○審査員及び審査基準	20
------------------	----

○第 39 回「少年の主張」全国大会～わたしの主張 2017 ～内閣総理大臣賞 受賞作品

仲間を守る一言	新潟県立燕中等教育学校	2 年	平澤 幸芽	21
---------	-------------	-----	-------------	----

「家庭の日」に関する目次

特選（広島県知事賞）

●作文の部

東広島市立西条小学校	1年	河野 颯真	ぼくのいもうと……………	22
広島市立東原中学校	2年	藤井 拓人	家庭……………	23
廿日市市立廿日市中学校	2年	西田 鈴音	命のバトン……………	24

●図画の部

福山市立多治米小学校	2年	吉山 颯祐	家族みんなで豆まき大会をして楽しかった。…	45
------------	----	-------	-----------------------	----

入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

●作文の部

三原市立西小学校	2年	中島 心杏	わたしの大好きなおじいちゃん……………	25
三原市立糸崎小学校	2年	松本 紳太郎	大好きかぞく……………	26
東広島市立三ツ城小学校	3年	篠原 誠仁	固まった家族のきずなもういろいろも……………	27
広島市立宇品小学校	4年	木村 礼理	おばあちゃんはエスパーなのかもしれない…	28
庄原市立高野小学校	4年	坂口 菜音	母さんのいない3カ月……………	29
東広島市立高屋西小学校	4年	内田 稟音	家族っていいな……………	30
東広島市立西条小学校	5年	山下 桜和	そう祖母のように……………	31
福山市立御幸小学校	6年	小嶋 さくら	いつも思っている事……………	32
東広島市立西条小学校	6年	川石 和果	大きな花火……………	33
熊野町立熊野第一小学校	6年	船田 龍斗	家庭について……………	34
三原市立第二中学校	1年	河野 萌香	4人家族……………	35
東広島市立磯松中学校	1年	植本 歌鈴	目標に向かってやりとげた母……………	36
東広島市立西条中学校	1年	功野 尊琉	妹がやってきた……………	37
坂町立坂中学校	1年	崎岡 菜摘	今幸せな暮らしができる理由……………	38
呉市立呉中央中学校	2年	松本 桜	家族愛……………	39
東広島市立西条中学校	2年	有松 大翔	伝える……………	40
廿日市市立野坂中学校	2年	伊藤 暖人	野球一家……………	41
広島市立五日市中学校	3年	津田 和輝	大きな背中……………	42
広島市立牛田中学校	3年	海道 由佳	いつか変わる日常……………	43
三原市立第二中学校	3年	胡 愛梨	笑い合えること……………	44

●図画の部

東広島市立下黒瀬小学校	1年	棚田 心希	ふたごのおとうといもうとのたんじょうび…	46
東広島市立中黒瀬小学校	2年	前濱 来果	また来年、元気で会おうね。……………	46
広島市立山田小学校	3年	柳川 陽花	みんなできれいなちょうちょを見ました。…	46
東広島市立寺西小学校	4年	尾崎 柚奈	私のかわいいイトコ。去年より成長したね！…	46
福山市立一ツ橋中学校	3年	鳥越 秀美	私と一緒にみんながいてくれることが幸せ。…	46

平成 29 年度「家庭の日」作文・図画募集要綱……………	47
------------------------------	----

審査員名簿及び審査要領……………	48
------------------	----

平成 29 年度応募校一覧……………	49
--------------------	----

「少年の主張」・中学生話し方大会 2017

日時：平成 29 年 9 月 2 日（土）9：00 ～ 15：30

場所：県立広島大学（広島市南区宇品東一丁目 1-71）



集合写真



大会開始前の客席



審査委員・会場風景



主催者及び来賓登壇



表彰式の風景

発表者一覧



基準
『言葉を大切に』

広島市立伴中学校
2年 林

花



4番
『音楽療法士へと
導いてくれた歌三線』

尾道市立向島中学校
1年 王野 奏海



1番
『私の新しい当たり前』

広島県立広島中学校
2年 藤川乃々帆



5番
『障がいをもつ姉と共に』

庄原市立庄原中学校
3年 熊原 奈保



2番
『ゴキブリの
偏見から考える』

広島市立亀山中学校
1年 中村 優那



6番
『人を人として見る目』

広島市立大塚中学校
3年 川本 絵莉



3番
『不可能を可能に』

三次市立川地中学校
2年 北村 大翔



7番
『あいさつ』

北広島町立千代田中学校
2年 和泉 晴香



8番
『今の自分がある理由』

安芸高田市立八千代中学校
3年 土井 主税



13番
『小さな勇気』

東広島市立松賀中学校
3年 平井 綾乃



9番
『へりくつから
学んだこと』

広島市立伴中学校
3年 黒木 利津



14番
『記憶を伝える』

尾道市立吉和中学校
2年 中濱 涼



10番
『つくり直し』

広島県立広島中央特別支援学校
2年 古川 芽愛



15番
『生まれ育った
ふるさととして』

北広島町立豊平中学校
2年 甲斐さくら



11番
『妹と私』

三次市立布野中学校
3年 庭谷 碧



16番
『ユニセフハウスで
実感した有り難さ』

庄原市立東城中学校
3年 竹上 雅弘



12番 ^{ゼロ}
『本当の0』

広島市立城山中学校
3年 道田 武憲



17番
『伝える』

広島市立井口中学校
2年 岡田 莉紗



18番
『個性を認め合える世界』

三次市立三良坂中学校
2年 田原 茉奈



23番
『それでも出来る事』

広島市立二葉中学校
3年 牟田悠一郎



19番
『コミュニケーション』

広島市立白木中学校
3年 福島 彩香



24番
『保障のないもの』

竹原市立賀茂川中学校
2年 西岡ひめみ



20番
『神楽の魅力』

安芸高田市立美土里中学校
3年 佐々木 健



21番
『簡単に言ってはいけない』

広島市立国泰寺中学校
2年 上田 真央



22番
『夢の階段』

北広島町立芸北中学校
3年 橋本 和花

広島県知事賞



本当の^{ゼロ}0

広島市立城山中学校

3年 道田 武 憲

僕の願い、それは本当の^{ゼロ}0にすること。

10万頭。この数字は1年間に殺処分されてしまう犬や猫の数です。殺処分とは、人間の身勝手な理由で手放された犬や猫が施設に集められ、殺されてしまうことです。

僕がこの事実を知ったのは小学4年生の時に見たあるニュース番組の報道でした。そこには、人間におびえ、檻の隅で小さく丸まっている犬や猫が映っていました。「何で檻の中にいるんだろう。」と僕は、何が何だか分かりませんでした。そしてアナウンサーの方がこう言いました。「広島県、殺処分数、全国第1位。」

「何で殺されるんだよ。ましてや平和都市であり、命の尊さや大切さをよく知っているはずの広島が。動物の命はどうでもいいのかよ。」残酷すぎる現実に僕は悲しみでいっぱいになりました。

それから、何度もこの事実について考えていくうちに、「殺される犬や猫をなくしたい。」という思いが、強く芽生えてきました。

まず「できることから。」僕は動物愛護センターという動物が実際に収容されている所に行きました。エサや水のやりかえ、檻の中の掃除、犬の散歩等、いろいろなことを手伝いました。

後日、そのことをクラスメイトに話すと、想像もしなかった反応が返ってきました。「よーやるよねえ。俺、犬嫌いじゃけえ。ボランティアが好きな人だけ頑張っときゃいいじゃん。」驚いた僕は何にも言えませんでした。

数年後、嬉しいニュースを聞きました。「広島県、殺処分数、^{ゼロ}0」しかし、この^{ゼロ}0は僕の願いである本当の^{ゼロ}0ではありませんでした。

実はNPO法人のある団体の方々が、収容されている全ての犬や猫を引きとっていったからなんです。その一方で、保健所や動物愛護センターに連れてこられる犬や猫の数はいっこうに減ってはいません。つまり県民の意識が変わったことで殺処分される犬や猫の数が^{ゼロ}0になったわけではなかったのです。

ある人がこう言いました。「今、センターに連れていっても大丈夫よ。殺されんけえ。ボランティアの人が面倒見てくれるけえ。」その言葉を聞いた時、クラスメイトとの会話がフラッシュバックしました。「好きな人だけ頑張っとけばいいじゃん。」

みなさんはどう思いますか。ボランティアの人だけが頑張って成り立っている^{ゼロ}0に。ペットをさigoまで飼う責任が薄れていく社会に。

僕はこんな^{ゼロ}0や、こんな社会では満足できません。僕の願い。保健所や動物愛護センター、ボランティアの方達の存在がなくても、殺処分される犬や猫が1匹もない、「本当の^{ゼロ}0」を実現する社会を創ること。しかし一部の人達だけでは願いは叶いません。

人間はこれまで災害や事故の度、支えあい、協力しあい、課題に正面から向きあってきました。だから今度はその力を、動物達にも使ってほしいのです。「本当の^{ゼロ}0」という願いを僕だけでなく、みなさんにも持ってほしいのです。一人一人が真摯にこの問題と向き合えば、願いは実現するはずだから。

殺される犬や猫を見て「かわいそう」という感想だけで終わらないでほしい。責任を持ってさigoまでペットを飼うこと。動物愛護センターに行ってみること。その行動が、その一歩を踏み出す勇気が、多くの動物達を救い、「本当の^{ゼロ}0」につながっていくのだから。



それでも出来る事

広島市立二葉中学校

3年 牟田 悠一郎

それでも出来る事はあるのか、無いのか。

「死にたい」確かに彼女はそう言ったのです。

私は小学生の時に8月6日の広島市平和記念式典で子ども代表として平和への誓いを述べ、中学校では平和に貢献するという公約のもと708名を代表する生徒会長になりました。しかし、私の足元にずっとあると思っていた平和は無かったのです。彼女はこう続けます。「毎日辛い。」「私なんて死んでも誰も悲しまない。」彼女は友達とのトラブルにずっと苦しんでいたのです。私はなんてつまらない生徒会長なのでしょうか。なんて無力な平和主義者でしょうか。私が目にしていた生徒達の笑顔の裏には、残酷な暴言・暴力が潜んでいたのです。彼女の涙と真実は私をどん底へと叩き落としました。戦時中でもないのに、すぐそばにあると思っていた平和は虚像だったのでしょうか。

今、テレビをつけると、インターネットを開くと、毎日どこかで誰かが死んでいます。いや殺されています。そんな国に、世界に、確実な平和や安心などありません。もしかすると皆さんのすぐそばで起きつつある事かも知れないのです。

私は生徒会ですぐに話し合いを始めました。平和とは何か、私達は何をすべきなのか、徹底的に目と目を合わせ話し合い、確認し合いました。いじめ、陰口、暴言暴力を無くすために出来る事、それは本当にたくさんあったのです。まず、私達は全校生徒に訴えました。集会などを通して平和のために出来る事を全てやろうと呼びかけ宣言したのです。そしてその一歩として学校から暴言や暴力を完全に無くすための取り組みを「優しさ拡大プロジェクト」として行っていました。取り組みは予想以上の成果を残し、今も少しずつですが全校生徒が前進しています。そして、傷付いていた彼女も、周りの優しさに触れ、笑顔を取り戻しつつあります。小さな闘いですが私は、私達は、この708名から平和を国へ、世界へと広げていきます。

ある時私は両親に、被爆者である祖父に「大人はなんで戦争を知っていながら動かないのか。」そう聞いた事があります。私が期待していた返事は返ってきませんでした。先日国連で採択された核兵器禁止条約。唯一の被爆国である日本が、交渉にすら参加していないのはどうしてなのでしょう。長崎で被爆者の方が言いました。日本の総理大臣に向けて「あなたはどこの国の総理ですか。」と。今こそ行動を起こす時です。もう二度とそんな事を被爆者の方には言うて欲しく無いのです。子どもと大人で一緒になって平和を訴えていきませんか。私達生徒会はこれからも平和のために行動し続けます。大人の皆さんには率先して前へ出て、それをリードしていただきたいのです。オバマ大統領が来て終わりーそれでは広島は平和のメッカでも何でもありません。どうか広島・長崎を始まりにして欲しいのです。

さあ、動き出しましょう。平和のためには、子どもも大人も関係ありません。世界の争いを止めるのは私達人間です。私は誓います。被爆者である祖父の思いを引き継ぎ、平和都市ヒロシマに生まれた者として、平和を訴え続けることを。二度と戦争をしないと誓った日本の国民として、平和のために動き続けることを。「それでも出来る事」いや、「それだからこそ出来る事」を求め続けることを。

戦争は、必ず心の小さな行き違いから始まるものだと私は学びました。私が見失いかけていた足元の平和を何より大切に、まずは私達の日々の学校生活づくりから平和を目指します。

「それでも出来る事」—それは私達の遠くに在るのではなく、すぐ近くに在ります。私はその一つ一つの事に真っすぐに向き合って行きたい、そう思っています。

広島県中学校話し方連盟会長賞



小さな勇気

東広島市立松賀中学校

3年 平 井 綾 乃

もし今、目の前で万引きをしている人を見たら、皆さんはどうしますか。小学校6年生の時、私は万引きの現場を見ました。私よりはるかに大きい、高校生くらいの男の人でした。それは、本当に突然のことでした。私が「あっ。」と言ったときにはもう、盗んだお菓子を口に入れ、全速力で逃げていました。私の小さな声など聞こえるはずもなく、誰も気づいていないようでした。私はお店の人に言うべきか迷いました。しかし、私の足は動こうとはしませんでした。何度も何度も私の足を止めたのは「恐怖」でした。今見た信じられないことへの恐怖、またその人に会うのではないかという恐怖。それに加えて、今見た事を誰かに話すというのは、私には何十倍、何百倍と勇気のいることでした。そうして、私は自分の心から逃げたのです。

あのとき私はどうしていれば良かったのでしょうか。もちろん、お店の人か近くにいた人に伝えるのがベストだったと思います。しかし、ときどき頭で考えていることと反対のことをしてしまうのが私達です。頭で考えるのは簡単です。けれど、声に出すのは難しいことです。友達に注意するのも勇気があることなのに、それが見ず知らずの自分より年上のましてや体の大きな人ならなおさらです。小さな勇気は、さらに小さく、小さくしぼんでしまいます。

しかし、本当にそれでいいのでしょうか。ルールなど無視、相手など関係ない、自分さえ良ければいい、そんな思いとそれを許す空気が広がると、どうなるのでしょうか。

ここで一つ、いじめを例に挙げて考えてみましょう。皆さんが「いじめ」と聞いたときに一番に考えるのはどのような人たちのことですか。まず、いじめを受けている人。そして、いじめをしている人。おそらくこのどちらかの人たちのことを考える人が多いでしょう。では、いじめを見て見ぬふりをしている人、この人たちのことを一体何人の人が考えたのでしょうか。皆さんは、「いじめの構造」について聞いたことはありませんか。中心にいじめを受けている人、そしてそのまわりにいじめをしている人と円形になっています。しかし、さらにそのまわりにも取り囲んでいる人たちがいるのです。それが、いじめを見て見ぬふりをしている人たちです。私たちはこの人たちのことを見落としがちです。けれど、結局はこの人たちもいじめをしている人たちと同じではないでしょうか。逆に言えば、この人たちが行動すれば、いじめを止めることができるはずです。万引きも同じではないでしょうか。

たしかに、私達一人ひとりが持っている勇気は小さくて、そんな中で出来ることなんて本当に小さなことだと思います。けれど、その小さなことをコツコツやること、それが万引きを減らす一番の近道なのです。一人ひとりがほんの少し勇気を出し、万引きを止めることができれば、その人は少しでも人生を変えることができるかもしれません。大切なのは周りがそれを許さないこと。本当の勇気を持つことなのではないでしょうか。

今、目の前で万引きをしている人を見たら、私は止めることができるでしょうか。いいえ、今のままでは無理だと思います。この問題は簡単なようで難しい。けれど、周りがそれを許してしまっていてはいつまでたっても変わりません。私達は未来を背負っています。未来を良くしていくのも、悪くするのも私達なのです。

未来の私達は持っているのでしょうか。小さくても「本当の勇気」を。

国際ソロプチミスト広島会長賞



夢の階段

北広島町立芸北中学校

3年 橋 本 和 花

「弟が欲しい！弟が欲しいよ！」

この言葉は当時5歳だった私の口癖でした。なぜ、この言葉を言っていたのか。それは、幼なじみに妹が生まれ、とてもうらやましかったからです。

ある日、私にもうれしい知らせがありました。

「ここに赤ちゃんがいるんだよ。」

母は、おなかをさすりながら教えてくれました。胸をおどらせ跳んで喜んだのを記憶しています。

しかし、母にとってはとてもつらい事だったのではないかと今では思うのです。なぜなら、母は高齢出産といわれる年齢だったからです。

母の検診について行ったある日、いきなり母は救急車で大きな病院に運ばれました。私達もついて行き、病院の先生に説明を聞くと、胎児が未熟なまま生まれそうになっているということでした。結局、妊娠8ヶ月で母は入院することになったのです。

出産の日、私は保育園に通っていたため立ち会う事ができませんでした。家に帰っても、うれしい知らせは届いていませんでした。しばらくして、病院から父が帰ってきました。そして、私にこう言ったのです。

「赤ちゃんは弟だったよ。でも、自分で息をする事も、心臓を動かす事もできないんだよ。あきらめないといけないかもしれない。」

涙が私の頬を伝いました。

その後、病院の先生の治療と看護師さんの心のこもった介護により、弟の命は助かりました。先生に、『後遺症が残る』と言われていましたが、奇跡的に後遺症も残らず今ではとても元気に過ごしています。

弟の名前は「亜斗夢」。なぜなら、この出来事を一生忘れないように、弟の命を救った保育器の名前をもとに付けられたからです。弟は、その保育器と、献身的に世話をして下さった看護師さんに救われました。

「大丈夫！元気な赤ちゃん産まれるから！」

不安を隠しきれない私に、看護師さんはたくさんの言葉で励ましてくれました。その温かい言葉と笑顔に、どんなに救われたことでしょう。母を支え、弟の命を救おうと懸命に働く姿は、私の心から離れなくなりました。とても素敵だと感じたからです。

私は今、勉強をがんばっています。なぜなら、「将来看護師になる」という強い思いを持っているからです。早く起きるのも苦手だけど早く起きられるよう努力をしたり、責任感をつけるため部長にもなりました。私にとって、「看護師になる」という夢は絶対に叶えたい夢で、すべてにおいての原動力となっています。

高齢出産が増えている今の時代、出産をすることに不安を感じる人がこれからも増えていくかもしれません。そういう人に、私の経験してきたことを話し少しでも、希望と勇気を持ってもらいたい。弟を助けてもらったように、私も一人でも多くの命を救いたい。そう思っています。

「看護師としての専門知識と最後まで命を守りぬく意思を持ち、患者やその家族により添い、励まし続ける。」

そんな看護師としての力をつけ、夢の階段を一步一步登っていきたいと思います。

広島清流ライオンズクラブ会長賞



簡単に言っではいけない

広島市立国泰寺中学校

2年 上 田 真 央

私の従姉妹は、障がいを持って生まれてきました。口の動きで話を理解することはできますが、耳は全く聞こえません。幼い頃から仲良しでよく遊んでいました。ある時、彼女の耳が聞こえないと知ったのは、私が小学2年生の時でした。会話ができない、話すときは手話を使っていることから気づきました。障がいを持っている人がこんなに身近にいたなんて。私はこれからどう接していかかわからず、一緒に遊ぼうと言われても断り、一人で遊ぶようになりました。申し訳ない気持ちでいっぱいになりましたが、自分からは何もできず、気持ちが沈んでいきました。そんな中、私が一人で遊んでいると、彼女は「どうしたの？大丈夫？」とやってきました。避けていた私を怒るところか心配してくれていたことが本当に嬉しくて涙が出てきました。そして、私の背中を優しくなで、あたたかい顔で私を見ました。その笑顔は「私は大丈夫だよ」と言っているようでした。彼女は障がいを持っていても今までと変わらない。優しくて前向きな人。そんな彼女を私は心から尊敬しました。それからは、お互いに悩みを打ち明けたり、ときにはケンカをしたりするなど、心の距離が縮まっていきました。

中学1年生の時、私はクラスの男子とケンカをし、強く言い返しました。すると「お前何言っとん？ガイジじゃないん？」突然男子が恐ろしい言葉を言ってきました。その時、私の頭に従姉妹の悲しい顔が浮かびました。「どうしてそんなこと言うん？」私は強い口調で言い返しましたが、男子は笑いながら「何でそんなに怒っとん？みんなガイジって言葉使っとんじゃん」と言い、めんどくさそうに帰っていきました。私は怒りと悲しみで言い返すことができず、立ちつくしていました。

障がいを持っているだけで軽々しく差別するのはおかしい。障がいを持っていても得意なことはたくさんある。人を思いやる心も持っている。それをいろんな人に知ってほしい。しかし、友達やましてや言い合いになった男子に障がいを持っている従姉妹がいると言うと馬鹿にされるんじゃないか。そう思うと伝えることが怖くなっていきました。

数日後、従姉妹が遊びに来ました。私は男子とケンカをし「ガイジ」と言われたこと、従姉妹の話をして障がいへの偏見を取りのぞきたいけれど馬鹿にされそうで怖いということなどを話しました。彼女は最初くもった表情を浮かべましたが、すぐに笑顔を取り戻し「障がいを持っているから不自由なことはたくさんある。馬鹿にされることもある。でも、嫌だと思ったことは一度もない。私には陸上というやりたいことがある。ピアノだって弾ける」と言いました。彼女の目は自信に満ち溢れていました。そこで私は決めました。馬鹿にされてもいいから彼女の本当の姿を伝えようと。

学校に行くと、その男子がまた大きな声で他の女子に向かって「ガイジ」と叫んでいました。私は怖さも感じましたが、従姉妹の自信に満ちた顔を思い出し、男子に話しました。すると、男子は驚き、表情がかたくなり、そしてうつむいて「ごめん。」と言いました。それからはその男子が「ガイジ」というのも聞かなくなりました。

私が少し勇気を出すと、一人の男子の考え方が変わりました。それは小さなことかもしれませんが。しかし、たくさんの人に伝えることで障がいをもっている人が笑顔で生活できます。周りに軽々しく人を差別する言葉が広がっていませんか。その言葉で悲しむ人はたくさんいます。簡単に言っではいけない。これをたくさんの人に伝えたいです。



個性を認め合える世界

三次市立三良坂中学校

2年 田 原 茉 奈

みなさんは、「音のない世界」を考えたことはありますか。私は最近、「音のない世界」について考える機会がありました。

ある日、インターネットの動画投稿サイトで一つの動画を見つけました。それは、アメリカのディズニーランドで撮影されたものでした。一人の少年が、ミッキーとミニーに出会った時のことです。ミニーが少年に向けて、『あなたに会えてうれしい』と手話で語りかけたのです。少年は満面の笑みを浮かべてミニーに抱きつきました。少年は、耳が聞こえなかったのです。

私は、この動画を見て衝撃を受けました。障害を持たれた方と接するとき、私たちはつい、特別なことをしなければならぬと思いがちになってしまいます。しかし、ディズニーランドの方たちは、障害という枠に当てはめず、一つの個性として自然に接しておられたのです。これほど感動したことはありませんでした。

そして、同時にこんなことを思いました。もし、自分の周りで危険なことが起きたら、耳が聞こえない方は身動きが取れないのではないかと。サイレンが鳴ったり、みんなが大声を上げたりしていても、周りが動いている理由が分かりません。とてつもない不安と恐怖に襲われるはずです。そんなとき、とっさに手話で会話をするのができたら、少しでもその不安と恐怖を和らげことができるのではないかと考えました。そして、私は手話を覚えることを決意したのです。

しかし、独学で学び始めた手話は、私が想像していたほど簡単なものではありませんでした。まず、五十音から覚え始めたのですが、似たような形が多いです。例えば「う」はこう表し、「と」はこう表します。それに方言と同じで、人によって表し方も違います。学べば学ぶほど奥が深く、その違いに戸惑うことばかりでした。途中で、「やっぱりやめようかな」と思ったこともあります。私一人が手話を身に付けたとしても、それほど役に立つとは思えませんでした。

それでも、あの時の動画が頭から離れず、私の心を奮い立たせてくれました。私は普段の生活が当たり前だと思って生きてきました。そして、私の身近に手話を必要とされる方もいません。しかし、その一方で、生きることに不便さを感じたり、支障をきたしたりして苦しい思いをされている方がいます。ディズニーランドのキャストの方がされていたように、生活することに不自由さを感じられている方に対して、すべての人が、自然に当然のことのようにならなければならぬと接することができたら、どれほどこの世界は生きやすくなることか、そう考えました。

だからこれからも、私は手話を覚えていきます。挫折したり考え方が後ろ向きになったりすることがあるかもしれませんが、根気強く向き合っていきます。そして、今の生活を当たり前と思わず、感謝の気持ち、人を、命を大切に生きていきたいと思えます。

「音のない世界」から、「音が見える世界」に変えていける手助けとなればよいなと思っています。頑張ります。



人を人として見る目

広島市立大塚中学校

3年 川 本 絵 莉

「私の価値って何だろう。私の価値は、どれくらいの大きさなんだろう。」少し考えただけでわかる疑問ではありませんでした。

中学生になり、本格的に始まったテスト。私は数学が一番得意で、途中までは順調でした。しかし、ある時大事な数学のテストでミスしてしまいました。

「じゃー、点数、次はとれるよね。」

私はこの時、とても怖くなりました。今まで私の価値を表していたはずのものが、たった一つのミスのせいで、数値として小さくなったことが証明されてしまった。次点数をとらないと、私が存在する価値なんてないのではないかと、怖くなったのです。物事の得意・苦手の差が激しい私にとって、一つの特技が認められなくなるのは、私の価値が認められなくなるのと同じでした。テストの度に、自分の価値が小さくなっていくのを感じました。日に日に弱気に、不真面目になっていく自分がいました。

「私の価値って何だろう。私の価値は、どれくらいの大きさなんだろう。」そんな疑問を持ったのは、この時からです。私は、誰からも認められる何かがほしくて、探し続けました。それでも自分の価値がどういうものなのか分からず、答えが出ることはありませんでした。

しかし、中学3年生の今。私の担任の先生はよく、生徒の行動を取り上げ、話をして下さいます。この時、クラスメイトの様々な良さに気付かされます。この前、体育祭ダンスで、自分がやりたかったチームに立候補が多く、私を含め何人かが別のチームに譲ったということがありました。その時、クラスメイトが自分から、私の行動を紹介してくれました。また私が班長をした時には、班員の良い行動を私もたくさん日記に書きました。私の指示で動いてくれたことを日記に書いてくれた班員もいます。このように、私も私の周りの人もクラスメイトの良さ・その人の価値に気付けるととてもいいクラスです。

ある時の疑問の答えが、少し分かった気がします。それは、一人一人が様々な良さをもって成り立っていること。人の価値を数値で表すことなど不可能で、人の価値に大きさなど関係なかったのです。数値では表せない行動は、誰からも必ず認められるものではないのかもしれませんが。その人の価値として証明するのは難しいのかもしれませんが。それを生徒に繰り返し話す先生は、人を数値ではなく、人を人として見ているのだと思います。私自身が人として見られたことで、私も人を人として見る目を持つことが出来ました。

テレビコマーシャルやIT企業の会社見学で、人の感じる味や、顔の表情までもが数値化されることを目撃します。私たち中学生の間でも、例えば私の体験のようにテストや、部活動の大会で数値が目されることはよくあります。そんな数値化によって社会はもっと便利になるでしょう。しかしだからこそ、人を人として見る目を忘れてはならないのです。様々な良さを持った人の価値を認めるために。

人を人として見る目を持つために必要なのは、その人が人として見られることです。私は最近、身近な友達の良さや行動を、言葉にしようと努めています。その場で口に出したり、日記に書いてみたり。これらは、私自身が人を人として見る目を持ち、広げるための第一歩。みなさんも、数値では表せない良さを見つけ、言葉にしてください。そうすれば、人を人として見る目は、広がるはずです。

私はこれから、まずは私のクラスに、人を人として見る目を広げられる存在に、必ずなります。



生まれ育ったふるさととして

北広島町立豊平中学校

2年 甲 斐 さくら

「あなたは将来、都会と田舎、どちらに住みたいですか。先生にそう聞かれたとき、私は都会が良いと思いました。理由は、都会の方が良いからです。私が住んでいるところは、近くにコンビニはありませんが、とても自然がきれいなところです。しかし、私は便利な都会にあこがれていました。

私は、去年の夏休みの終わり、東京に行きました。もちろん東京は、電車やバスも便利に乗れて、かわいい洋服、雑貨、読みたいと思う本などがすぐに手に入ります。どこを見ても高いビルで、色々な音楽が聞こえてきました。テレビで見たことのあるお店や、今はやっているスポットなどに行き、楽しく過ごすことができました。しかし、夜になり、シーンとした部屋の中で、車の音を聞いていると、ふと、ふるさとを思い出しました。それと同時に、友達の顔が頭に浮かび、ふるさとが恋しくなってきました。自分の家の方が落ち着くし、家が恋しいと思いました。そこで初めて、ふるさとを、もっと大切にしていこうという気持ちになったのです。

私が今住んでいるふるとは、緑が豊で、空気がとてもおいしいところです。自然がとてもきれいで、四季によって景色が変化するのも特徴です。春は桜のピンク色、夏は青々とした植物の色、秋は紅葉の赤やオレンジ色、冬は雪の白い色。こうした色の違いを、自分の目で確かめることができます。そして、そば作りは有名で、そばがとてもおいしいです。また、都会では少ない、地域との関わりがたくさんあります。特に、お祭りなどのイベントでは、都会からの方も来られますが、年齢問わず、地域の方がたくさん集まります。そこで人とふれあい、ふるさとの特産品や伝統について、新しい発見をすることができ、ふるさとのことに詳しくなれます。

私の学校では、学校行事として日曜参観があります。日曜参観では、保護者だけでなく、地域の方も多く来られ、地域ごとに集まって自己紹介をして交流をすることができます。みんな優しく、笑顔とあいさつであふれた明るいところです。

都会は便利よく生活できる場所、田舎は自然がきれいで緑が豊かなところが良いと思います。それぞれの良さはあるけれど、私は自分が生まれ育ったふるさととして、ふるさとを愛し、大切にしていきたいです。そして将来、私はふるさとに住み、ふるさとのお祭りや活動に積極的に参加し、ふるさとを盛り上げていきたいと思っています。なぜなら、自分が生まれ育ったふるさとだからです。



神楽の魅力

安芸高田市立美土里中学校

3年 佐々木 健

皆さんは、神楽の魅力は何だと思いますか。絢爛豪華な衣裳、激しい舞、美しい音色を奏でる奏楽。多くの方は、それらの迫力に圧倒されることと思います。私も、その中の一人でした。神楽団の人の舞に憧れ、4歳で神楽の世界に足を踏み入れてから10年、私は、神楽を通してさまざまな経験を重ね、成長してきました。

そして、何度も舞台に立つ中で、神楽の魅力は「舞台の上」だけではないと思うようになりました。人と人とのつながり、これが神楽のもう一つの魅力だと私は考えます。

神楽は決して一人ではできません。舞台に立つ舞手や楽だけでなく、音響や舞台演出、衣裳の着付けや化粧を担当する人など、多くの人が関わって初めて1つの舞台ができるのです。もっと言えば、面や衣裳、小道具を作る職人さんの力も欠かせません。このように数え切れないほどの人たちが一丸となって作り上げる舞台。そこで舞うときの高揚感、客席から拍手をもらった時の喜びは本当に最高です。

私は、この神楽の魅力を、地元や県内だけでなく、もっと多くの人に伝えたいと考えています。最近では、東京で舞を披露する機会をいただきましたが、とても良いPRになったと思います。しかし、残念なことに時間の都合上、演目を短縮せざるを得ませんでした。また、県内でも競演大会などは多くがホールで演じられており、本来の「奉納」としての舞とは異なるものが増えています。また、競演大会に出るために、団の個性を抑えた演出にすることもあります。このような神楽の現状に対して、神楽をする側、見る側の両方から、さまざまな意見が聞かれます。私の所属する神楽団でも、いろいろな世代が集まっているので、意見の相違が出てきます。私にも、競演大会で優勝したい、という思いがありますが、どちらかというと、昔から受け継がれている古い舞をもっと大切に、守っていきたいと考えています。

神楽には長い歴史があります。その背景には伝承してこられた多くの人々の思いが詰まっています。私たちは感謝と敬意を込めてその思いを受け継いでいかなければなりません。もちろん、派手な演出を取り入れた新しい神楽も楽しんでもらえるとは思いますが、ですがやはり本来の迫力を肌で感じてもらうには、神社などで舞う伝統的な「奉納神楽」をぜひ味わって欲しいと私は考えています。なぜなら神社の神楽殿の独特の雰囲気や、間近で見る舞の迫力は、言葉では言い尽くせないほどの魅力があるからです。舞手の個性を存分に発揮することができ、裏方も観客も、皆が一体となって楽しめる、このような昔ながらの神楽こそが、私の大好きな神楽の姿なのです。

私の夢は、神楽を次の世代に伝承し、地域に貢献することです。大好きな神楽を、大好きな神楽団の皆さんと共に、これからも舞っていきたいです。

そしていつか、観客を神楽の世界に引き込めるような、神楽本来の魅力を体全体で伝えられる、そんな舞手を目指したいと思っています。



不可能を可能に

三次市立川地中学校

2年 北 村 大 翔

皆さんには何か夢がありますか。今の僕には「野球で強くなりたい」という夢があります。…今一瞬、皆さんの心に何か疑問は生まれませんでしたか。「お前には無理。」「できるわけないじゃん。」

僕には、生まれつき背が伸びにくい病気があり、頭が大きく手足が短いアンバランスな体をしています。そのため、小学校5年生の時から始めた少年野球でも、ずっとベンチでした。たまに代打で使ってもらうことはあっても、6年生になってもレギュラーになることはありませんでした。自分なりに、プロ野球選手の技術を動画で見て研究し、練習も欠かさずやりました。試合に出られなくても、自分にできることは応援だと割り切り、ランナーコーチとして、全力でチームメイトを盛り上げることに専念しました。

そんな僕が中学生になってから出会ったのは、広島アローズという社会人の野球チームです。障害者の方たちのチームですが、見学に行ったときの衝撃は忘れられません。みんな楽しそうに生き生きと野球をしています。障害があるから、という周囲の視線なども一切関係ありません。これこそまさに僕が目指している世界だ、と直感しました。社会人チームですが、僕も練習に参加させてもらえることになり、張り切って参加しました。自由に体が動かさなくても、残された機能を活用し、工夫を加えて粘り強くプレーされていました。泥まみれになっても球を追いかける迫力ある姿に憧れ、僕もこんな選手になりたい、と強く思うようになりました。

しかし、想像以上に厳しい練習と、今の僕の力ではとうてい追い越せないと思える高い壁が立ちはだかっていました。でもそんなことであきらめるわけにはいきません。僕は今まで以上に野球へのテンションが上がっていきました。

アローズで野球をするようになってから、僕自身の考え方も変わってきました。先輩方から教わったことは、野球だけではなく、「礼儀・技術・信頼」という三つの大切な言葉を教えて頂きました。また、「身体のことを理由にして、できない、とわない。」「不可能を可能にする道が必ずある。」「何事も全力でチームプレーを忘れない。」という言葉も強く胸に残っています。

その中でも、「不可能を可能にする道」という言葉が一番気に入りました。今まで僕は、不可能だと思って練習を続け努力してきましたが、それを否定し、見下す人に心を痛めていました。見下す心は、いじめにつながる心であり、努力する人を迷わせ、ネガティブ思考にしていきます。今でも僕の耳の奥には「無理、無理」という嘲笑の声が残っています。それでもあきらめずに、努力し続けた僕に、アローズの先輩方が道しるべを示してくれました。僕の病気のことも個性だと思えるようになりました。

だから、この「少年の主張」にもチャレンジしている僕がいます。夏休み中には英語の暗唱大会にも参加しました。以前の僕だったら大勢の人前に立つなんて、「無理」、出場しても、さらに上を目指すなんて「無理」と自分で可能性を閉ざしていました。

でもこれからは、道を切り拓くため、努力を惜しみません。また、同じように努力している人を、否定するのではなく、心の底から応援したいと思います。不可能を可能にする道は必ずあるのだから、志を高く持って進んでいきます。

Where there is a will, there is a way.



保障のないもの

竹原市立賀茂川中学校

2年 西 岡 ひめみ

「バイバイ。」

そう言って、手を振ったのが最後になるなんて思いもしなかった。

夏が近付いてきた頃、ひいおばあちゃんは体調を崩し入院した。私はお見舞いに行こうとしたが、運悪く風邪をひいてしまい、会いに行くことはできなかった。風邪を長引かせている間、ひいおばあちゃんの病気は悪化していった。

そして、一番恐れていた日が来た。

「お葬式に行くから準備して。」

突然言われたこの言葉。一瞬で頭の中が真っ白になった。

「誰の？」

分かっている。誰のお葬式なのか分かっている。でも、認めなかった。

「ひいおばあちゃんのよ…。」

混乱する頭の中で、呆然とするというのは、こういう事を言うのだらうと考えていた。

ひいおばあちゃんの家に着いて、姿を見ても実感がなかった。「今にも起きてくるんじゃないの。まさかドッキリとか言わないよね。ねえ、何で起きてこないの？」そう思いながら、ひいおばあちゃんの顔に触れた時、実感した。これは現実なんだと。固くて冷たくて。見て分かる。もうこの世にいないことが。

お葬式が終わった後、私は後悔ばかりしていた。行こうと思えば自転車で行ける距離なのに、なぜ行こうとしなかったのか。会う度に話したいことはたくさんあったのに、なぜ聞いているばかりだったのか。感謝の言葉もたくさんあったのに…あれが最後になると分かっていたら、もっともっと話していたのに。どれだけ後悔しても過去が変わることはない。

人はどうして、失った後から後悔するのだらう。失う前にその大切さに気付かないのだらう。もう二度と、私の名前を呼んでくれない。優しい手で頭を撫でてくれることもないひいおばあちゃんが生きている時に当たり前感じていたことは、当たり前じゃなかった。もっと早くに気付けていたら。一緒に時間を大切にしていたのに。

命あるものに保障はない。今、自分が生きていることも当たり前ではない。大切な人が、明日も明後日も、これからもまだまだ生きていけると思ったら大間違いだ。笑いながら別れたのが最後になるかもしれない。ケンカしたのが最後になるかもしれない。必ずしも、明日会えるとは限らないし、これからもまだまだ長生きするという保障はない。

人間は失ってから、その大切さに気付くことが多い。一緒にいる間はあまり感じないけれど、失ったあとから、さりげない動作、言葉、全てが大切だったのだと思えてくる。明日が来るかどうか分からない中で、後悔しないようにどう生きていくか。私は思う。一人一人が、自分の一度しかかない人生を見直して、後悔しない未来を創っていく必要があるのだと。



審査委員長

東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長

山 本 名嘉子

皆さん、こんにちは。朝早くから今日の発表会場にご参集くださいます、また立派な発表をしてくださいます、本当にありがとうございました。私たち審査員は、25名の方の発表に一つ一つ共感し、心打たれ、しばらくは採点をするのも忘れるほどのことでした。本当にありがとうございました。

まず最初に全体の印象を申し上げますと、どの人の発表も大変すばらしかったと思います。自分を素直に見つめ、自分の考えや思いを真剣に伝えようとしている。その純粋な気持ち、心、そういった強い心が伝わってまいりました。また、中学生として自分たちが何をしなければならないかといった強い覚悟のようなものもうかがえて、本当にこれからの未来が明るくなるような思いがいたしました。

一人一人の発表に触れることは出来ませんが、気付いたことを申し上げます。

まず審査の基準は8項目で、ご案内の通りでございます。大きくは二つの視点です。一つは何を伝えようとしたかということ。つまり内容、論旨といったところです。もう一つは、どのように伝えられたかということ。あるいはどのように伝えようとしたかという、この二点が大きな項目でございます。

まず内容の点から申し上げますと、何を伝えたかったかという点では、やはりひと言で言えるぐらいのきちんとしたまとまりというものを持っていたかと良いかと思います。

その内容ですが、それぞれの人が自分の体験・経験を通して考えるということがございました。自分を振り返って、自分の生き方を考える。これから自分はどんなふうに生きたいか。ある人は看護師になりたい、ある人は地域に生きていきたい、というような自分の生き方を考えている。これが一つ、目立ったところでございました。

二つ目は、身近な題材を取り上げて、目に触れた出来事から、自分で感じたこと、考えたことを掘り下げて、自分の意見をつくり出していったところに素晴らしいものがありました。例えば、「小さな勇気」であるとか、「本当の0（ゼロ）」などの発表に見られたことです。これらには、身近なことから気付いたことを、行動を通して、さらに考えを深めていくことができていたということがありました。

また、地域の人たちと関わり、そこで地域の良さを見つけた人がいました。例えば、神楽を通して多くのことを学んだ経験や、地域の人と三線（さんしん）を通して触れ合って地域の良さを学んだという発表です。これらは、中学生として本当に素晴らしいことだと思います。

さらに、感心したことは、中学生として自分が何をしなければならないかと考えた人たちがいたことです。例えば「それでも出来ること」とか、「本当の0（ゼロ）」の殺処分ゼロというような問題です。中学生として、あるいはもっと言えば人間としてなのでしょうけれども、この中学生の時

期にそのことに気付き自ら自覚しそれに取り組もうとしている。それは大変すばらしいことだと思います。内容の面では、目立ったのはそういうところです。

では、それがどのように伝えられたかということですが、話し方、意見発表の場ですから、やはり話す言葉、話し方、態度、そういったものの問題になってくると思います。それはとても皆さん上手になられたと思います。

この話し方については、やはり内容と、声であるとか、間（ま）であるとか、そういったものが一体となって伝わってまいりますので、分けて考えることはなかなか難しい。しかし、心に響く話し方はできていたように思います。大きな声で強く言えばいいということは非常に少なくなってきました。静かな声であるけれども力強く、そして相手の心に届くように話す努力はされていました。「小さな勇気」の発表などにはそのことがよくできていたように思われます。

審査員の先生方の中に、「もっと『目で話す、ということがいるのではないか』という声がありました。目で話すというのはどういうことでしょう。話す相手を見て、自分の心が伝わっているかどうかということを、確かめながら話すということなのだろうかと思います。つまりそれは、このためには話している人が、自分の話していることに実感を持っているか、また本当に自分の気持ちを伝えようとしているかということがとても大事なのではないかと思います。すばらしい考えも自分のものになっていないと上滑りになっていきます。そういった話し方も見られないわけではなかったのが残念でした。

個々についていろいろ申し上げたいと思いましたが、それらは先生方が採点された結果に表されていると思います。しかし、採点の結果には、それぞれの聞き手の方のさまざまな受け止め方があります。ですから自分の発表がダメだったなんて思わないでください。皆さんのすばらしい意見は、ちゃんと聞き手に、特に審査員の胸には伝わってきています。

最後に、皆さんは、今日のこの発表の場までに、大変なご努力とご苦労をなさったと思います。原稿を作る、まず何を話そうかと材料を集める、そしてどんなふうに話そうかと組み立てを考え、言葉を選び、文章化し、そしてさらには、話し言葉にしてみるといった段階の中で、何度も思うように自分の思いが伝わらないと悩んだこと、また時には厳しいご指導もいただいたかもわかりません。苦しかったこともたくさんあるのではないかと思います。しかし、今日までのこのような経験が、私はとても大事なのではないかと考えています。結果ではなくて。そして、その過程で学んだこと、それを力として、これからの学校生活や社会生活、家庭生活に生かして力強く生きていただきたいと思います。

身近な生活に、あるいは身近なさまざまな出来事の中に「気付く」ということはすばらしいです。ふだん見過ごしてしまいそうなことに気付くこと、私もゴキブリのことは初めて知りました。これまで偏見を持って見ていました。そういうような気付いたことをお互いに伝え合ってこそわかってくること、理解し合えることがたくさんあります。身近な生活の中にさまざまな問題があって、そのさまざまな問題に気付き、理解し、共有していくことの大切さを今日までの発表の中で学んできたのではないかと思います。

今日、皆さんは、自分の考えを持つこと、自分の意見を持つこと。そしてみんなの前で勇気を持って、一小さな勇気かも知れませんが、本当は大きな勇気でしょうー、勇気を持ってみんなの前で自分の信じることを話す。そういう経験。そしてそれを発表することによって、また自分の中で確かになっていくという貴重な体験をされたのだと思います。

そうしたたくさんの学んだ経験や力を、これからの学校生活や家庭生活の中で生かし、話し合っ、協力し合っ、問題を解決してください。皆さんの発表を聞いているとそのような力のすばらしさを感じることができました。

本日はどうもありがとうございました。

「少年の主張」・中学生話し方大会 2017

第 39 回「少年の主張」広島県大会開催要領 第 51 回中学生話し方広島大会開催要領

- 1 趣 旨 国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子供たちには、論理的に物事を考える力、自分の主張を正しく伝える力、広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけることが求められている。
この大会は、中学生が話すことによって伝える力を育み、学び合う機会となるとともに、意見発表を通して、中学生への理解と認識を深めてもらうことをねらいとする。
- 2 対 象 広島県内の中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議、広島県中学校話し方連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 4 協 賛 国際ソロプチミスト広島、広島清流ライオンズクラブ、公益財団法人広島青少年文化センター
- 5 後 援 広島県、広島県教育委員会、広島市、広島市教育委員会、広島県公立中学校長会、広島県私立中学高等学校協会校長会、中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島
- 6 開催日時 平成29年9月2日（土）9：30～15：30
- 7 日 程 9：00～9：30 受付
9：30～9：45 開会行事
9：45～12：00 発表「午前の部」
12：00～13：00 出場者記念撮影、昼食
13：00～14：00 発表「午後の部」
14：00～14：30 「少年の主張」全国大会のDVD上映
14：30～15：30 審査発表、表彰、閉会行事
- 8 開催場所 県立広島大学 広島キャンパス教育研究棟2 2143大講義室
(広島市南区宇品東一丁目1-71)
- 9 発表内容 次のA,B,Cの中から、日ごろ心に思っていること、考えていることや感じていることを、自由でユニークな発想と、飾り気のない言葉でまとめたもの。
A 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
B 家庭、学校生活、社会（地域活動）または、身の回りや友だちとの関わりなど。
C テレビや新聞などで報道されている社会の様々な出来事に対する意見や感想・提言など。

- 10 発 表 小道具は、使用しない。
発表時間は5分程度（目安として400字詰め原稿用紙 4 枚程度）
ただし、6分を超えるものは審査対象外となりますので、ご注意ください。
- 11 応募方法 申込書に原稿を添えて、中学校長を経由して提出する(原稿は返却しない)。
ただし、市町、青少年育成市町民会議等の類似の大会で入賞した中学生の応募も可とする。
この場合、市町等においてその旨を付記して、市町等から提出するものとする。
原稿は原則**400字詰め原稿用紙（A 4 判縦書き）を使用すること**。（学校等で使用される B 4 判縦書きも可とする。）
- 12 申込締切 **平成29年 7 月 3 1 日（月）必着**
- 13 事前選考 提出された原稿を主催者において審査し、大会出場者を決定する。なお、大会の出場資格を得た者については、各中学校長等あてに 8 月中旬に通知する。
- 14 審 査 審査は、学識経験者、マスコミ関係者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成広島県民会議及び広島県中学校話し方連盟並びに協賛団体の代表者によって構成する審査会で行う。
- 15 表 彰 広島県知事賞、(公社)青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞（各 1 名）、優秀賞（6 名程度）及び優良賞を選考し賞状を贈る。
- 16 副 賞 この大会で、広島県知事賞、(公社)青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞を受賞した 5 名には、副賞（5 日間の海外研修）が(公財)広島青少年文化センターから授与される。
時 期：平成30年夏休期間（予定）
訪問先：大韓民国（春川、ソウル）
- 17 そ の 他 この大会で、県知事賞を受賞した者を、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催の「少年の主張」全国大会（11月12日(日)東京で開催）への出場候補者として推薦する。
- 18 問い合わせ先 公益社団法人青少年育成広島県民会議「少年の主張」係
申込み先 〒730-8511 広島市中区基町 1 0－5 2（広島県環境県民局県民活動課内）
電話 082－513－2742
ファクス 082－511－2173

審査員及び審査基準

1 審査員

審査員長	山 本 名嘉子	東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長
審査員	上 野 早 苗	国際ソロプチミスト広島会長
//	沖 見 広 徳	広島県環境県民局県民活動課長
//	清 川 徹	元NHKアナウンサー
//	黒 小 大 介	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
//	齋 藤 司	広島県中学校話し方連盟顧問
//	田 中 知 満	広島清流ライオンズクラブ会長
//	田 原 直 樹	中国新聞社論説委員
//	樽 谷 和 子	公益財団法人広島青少年文化センター館長
//	津 田 智 子	広島市教育委員会指導第二課指導主事
//	山 内 吉 治	公益社団法人青少年育成広島県民会議副会長

(50音順, 敬称略)

2 審査の基準

概ね次の点を採点ポイントとし、内容、論旨、表現、態度等総合的に評価を行う。

① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。

(柔軟な発想に基づく意見や提言、未来への希望や夢・メッセージ、新しい情報や視点など)

② 具体的な内容とともに、一般性・社会性の広がりがあるか。

③ 提案や提言を実現・実践する意欲や積極性が感じられるか。

④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

⑤ 発表に熱意が感じられ、迫力があるか。

⑥ 主張の内容が感銘と共感を与えているか。

⑦ 説得力のある話し方であるか。

⑧ 発表の早さや間のおき方、姿勢が適当であるか。

仲間を守る一言

新潟県立燕中等教育学校

2年 平 澤 幸 芽

「Aちゃんをはぶろうよ。」

もし、友達にこう言われたら、あなたは本当の自分の意見が言えますか。私は言えませんでした。だから私は、この主張をします。かつてのAちゃんみたいな人が、少しでも減ることを願って。

「Aちゃんをはぶろうよ。」

仲の良い友達から、突然言われた一言だった。私には、Aちゃんを嫌う理由がなかったから、頭の中が疑問だらけだった。「昨日まで、仲良くしていたのに、何でいきなり？」しかし、その疑問は口に出せないまま、なんとなくうなずくだけで、のどの奥に沈んでいった。

次の日から、身近な友達の全員がAちゃんを無視し始めた。Aちゃんが近づいてくると離れ、Aちゃんの話を守るように誰かが話を始め、Aちゃんをわざと一人にした。だんだんとAちゃんから笑顔が消え、やがて近づいてこなくなった。周りの友達は笑っていた。

私は「こんなことをしてはいけない」「こんなのいじめだ」と分かっていた。目の前で繰り返される残酷な光景に対して、分かっていたが、声が出なかった。これを言ってしまったらどうなるのだろうか。Aちゃんともう一度仲良くなれるのだろうか。それとも、次は自分がはぶられるのだろうか。自分がはぶられることは、絶対に嫌だった。だから私は、周りの人に合わせて、意味もなく笑った。自分の意見が言えないまま。Aちゃんを避け続けた。

それからというもの、友達という存在が、「楽しい人」から「疲れる人」へと変わっていった。もう一緒にいるのも疲れてしまい、面倒だった。けれど、嫌われたくないから、とりあえず何でも「うん」と答えた。私はそんな「友達」が嫌いだった。しかし、もっともっと嫌いな人がいた。それは自分自身だった。はっきりと「良い」も「悪い」も言えない自分が大嫌いだった。ある夜、ノートに真っ赤な文字で、「大っ嫌い、大っ嫌い。死ぬ死ぬ死ぬ……」と書き殴った。そのページの一番上に、はっきりと「自分なんか」と書いていた。

そんな中、インターネットを開き、画面に目を通して、私はある言葉と出会った。「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる。」

それを見た瞬間、ドキッとした。まるで今の状況を理解して、私のために書かれているかのような言葉だったからだ。その時やっと気づくことができた。自分が変わらなければならないということ。私が言うべき言葉は「うん」という「自分を守るための言葉」ではなく、「こんなのいじめだよ。もうやめよ！」という、「大切な仲間を守るための言葉」だったということ。

「ねえ、もう、やめよ。」次の日、あの言葉に背中を押され、勇気を出して、私は友達に伝えた。「……うん。」少し間を置いて、友達は私の言葉を受け止めてくれた。そして、みんなでAちゃんに謝った。

今年6月、県内の中学2年生がいじめを苦にして、自らの命を絶った。同じ年の子が、私が想像もできないくらいの、痛みや苦しみを抱えて命を絶ったであろうことにショックを受けた。それと同時に、もしAちゃんを避け続けていたとしたらと考えたとき、私は恐ろしい気持ちになった。誰も、彼を守ってあげられなかったのだろうか。周囲の人たちはみな、私のように、救いの一言を飲み込んでしまったのだろうか。「やめようよ。」その一言は、命が失われてからでは遅い。いじめは人を死に追いやる。だからこそ、周囲の態度は、それに対して責任をもたなければならないと思う。

私は、今では仲の良い友達にも「良い」、「悪い」と自分の思いを伝えている。安易に同調することだけが、友達ではないからだ。それから、「なんでもいい」という言葉はあまり使わないようにしている。「なんでもいい」は自分の意見を言うことを放棄していることであり、無責任な態度からだ。今でも時々、「○○ちゃんってうざくない？」そんな言葉を耳にする。でも私は、「私はそんなことないと思うよ」と、責任をもって、自分の意見を言うようにしている。その一言が、周りの大切な仲間を守る一言になるからだ。

「家庭の日」に関する作文・図画

特 選

ぼくのいもうと

東広島市立西条小学校

1年 河 野 颯 真

ぼくには、いもうとがいます。なまえは、はるかです。いもうとは、なつにうまれました。ぼくとおとうさんは、うまれるときにいっしょにいました。くろくて、ちいさくて、かわいかったです。かぞく4人で、しゃしんをとりました。ぼくはおにいちゃんになったからいもうとにごはんをたべさせたいとおもいました。いもうとがうまれるのがたのしみだったから、うまれたときはとてもうれしかったです。

いもうとは、もうすぐ2さいになります。あんまりおしゃべりはできないけど、すいかの「か」とか、いちごの「ご」とか、おにいちゃんの「にいにい」とかしやべります。いつも、「にいにい」といって、ぼくのあとをついてきます。ついてくるとかわいくてうれしいです。

いもうとは、くだものが好きです。あと、かるびすも好きです。「じゅーちゅ」といって、こっぷをだして、ぼくにじゅーすをついでもらいます。いもうとは、こっぷをぶんぶんふりまわしてこぼします。だから、つぐときは、「てをぱっとして」といいます。そしたら、いもうとはてをうしろにくみます。てをうしろにくんだらついであげます。ついであげるときは、にこにこしてまっています。

いもうとはわるいです。いつも、いたずらをします。ほんを、ふみます。あと、おもちゃでぼくのあたまをたたきます。たたかれるといたいです。いもうとに、「やめて」というけどやめてくれません。でも、ぼくはおにいちゃんだからやりかえしません。おとうさんとおかあさんがみていたら、いもうとに「やめなさい。」とおこって、ぼくには「だいじょうぶ？がまんしてえらかったね。」といってぎゅっとだっこしてくれます。だっこしてもらったら、ぼくはすぐになきやみます。だっこされるのははずかしいけど、うれしいです。

いもうとは、しゅくだいのじゃまもします。ぼくがしゅくだいをしていると、のーとをひっぱったり、えんぴつをいじります。ふでばこをうらがえしてなかみをだしたり、ぼくのしゅくだいにらがきをしたりします。「だめだよ。」といって、とりあげるといもうとはなきます。

いつも、ぼくのことがだいすきだからまねばかりするとおもいます。おかあさんがいってもきかないときも、ぼくのいうことをききます。いもうとは、いたずらばかりしてきらいなときもあるけど、とってもかわいいからやっぱりだいすきです。

広島市立東原中学校

2年 藤井 拓人

僕の「家族」は母一人です。「家庭」という言葉を使うと「母子家庭」です。「一般家庭」と聞くと「明るい」イメージがありますが、「母子家庭」と聞くと「寂しい」イメージを、想像されているのが顔の表情で分かります。それは、父親がいないという理由もあるだろうし、母一人で大変であろうという理由もあると思います。そこで僕は「僕が考える僕の一般家庭と母子家庭」について書こうと思います。

僕は小さい頃から「一生懸命働いてお金をもらってくるのが、お母さんの仕事。あなたは学校に行くのが仕事。友達と勉強、両方大事にしてください」と言われてきました。僕は小学校、中学校ともに、友人に恵まれ楽しい学校生活を送っています。母とも毎日1日の出来事を話しています。それは、ご飯を食べている時であったり、一緒に車に乗っている時であったり、テレビを見て笑っている時であったり、時には母の仕事の愚痴を聞くこともあります。いつも笑っているばかりではなくケンカもします。ケンカになると母はものすごく本気で言葉（気持ち）をぶつけてきます。父がいない環境で育っている僕ですが、きっと父がいるとこんなふうに怒られるのだろうと思うほど怖いのです。お互い納得いくまで何時間でも話し合います。でも仲直りをするると5分前は鬼のようだった母が嘘のように笑いながら話しかけてくれます。僕もつられて笑っています。僕は野球が好きで母も僕以上に野球が好きです。たまに、河川敷で母がキャッチボールをしてくれたりノックをしてくれます。決して若くない母は帰りヨタヨタしています。そんな日は僕がご飯の支度をします。毎日元気な訳でもありません。母が病気になることもあります。僕が病気をすることもあります。僕と母が病気になると「お互い大事な仕事」に行かなくなるので健康には気をつけています。僕がヒットを打ったりテストを頑張ったら母はご褒美に焼肉に連れて行ってくれます。僕にとって一番嬉しい時間です。悲しいことがあればお互い励まして嬉しいことがあれば一緒に喜び、腹が立つことがあればどちらかが「まあまあ」といっています。僕はこのように色々な毎日を送っています。

では、最初にした「母子家庭」と「一般家庭」についてですが、僕は言葉で表すと寂しいイメージの「母子家庭」です。世の中には様々な事情で母子家庭になってしまい本当に「寂しいイメージ」のある母子家庭の言葉になっている方もたくさんいると思います。でも、僕の毎日は明るいイメージの「一般家庭」＝明るいイメージの「母子家庭」です。さほど変わりはないと思っています。僕は「今幸せか？」と聞かれたら「普通」と答えます。この「普通」が幸せなのかもしれないと思います。「家庭」という言葉のイメージで暖かくなり寂しくなり見方も違ってきます。でも本当のところというのは自分がどう感じるかだと思います。僕は普通の幸せで明るく暖かい家庭をこれからも維持していきたいと思っています。

廿日市市立廿日市中学校

2年 西田 鈴音

私はこの夏2つの体験をしました。今年の春から闘病していたひいおばあちゃんが亡くなり、それと同じ時期に13歳違いのいところが産まれました。

私のひいおばあちゃんは頑張り屋で笑顔を絶やさない人でした。そんなひいおばあちゃんの病気が見つかったのは今年の2月でした。治らない病気と知りながらも弱音を吐かずに生きるということとを頑張っていました。私は後で知ったのですが、ひいおばあちゃんは闘病中にメモ書きを残していました。そのメモ書きの中で私が一番心に残った言葉は「生き抜く」という言葉です。余命半年と知っていながらも生きる強さを持ち続けていたのは、6番目のひ孫を抱く夢があったからです。ひ孫は7月12日に生まれる予定でした。その誕生を心の支えに闘病生活を送っていました。

また、弱音を吐かないひいおばあちゃんは、私がお見舞いに行った時に本当は1番、自分が辛いのに私に何度も「バレー頑張っね。」と言ってくれました。その言葉は今も私の胸に残っています。

亡くなる1か月前から自宅療養になり、食べたり話したりすることが難しくなっていました。しかし、7月12日に産まれる予定のひ孫を待っていたのだと思います。「赤ちゃん、赤ちゃん。」と小さな声で待ちわびていました。いところが誕生し退院したその日にひいおばあちゃんに会いに来ました。その時の写真を見た時に私のひいおばあちゃんは最高の笑顔を浮かべとても喜んでいるように見えました。その写真の下に書いてあった言葉があります。それは「みんな大切な命」です。命には限りがあり人はいつか亡くなり、また新しい命がやどるということをひいおばあちゃんは私たちに伝えたかったのかなと思います。

私がこの夏に体験したことは貴重で思春期の私の心を動かした出来事だったと私は思います。命のバトンをつなぐためには悲しみと喜びを味わえることができるということを知りました。これから先どんなことがあっても命のバトンをつなげてくれた人のために全力で生き、命を大切にしたいと思います。

入選

わたしの大好きなおじいちゃん

三原市立西小学校

2年 中 島 心 杏

わたしは、おじいちゃんとすごくなかがいいです。おじいちゃんは、近くにすんでいて、よくあそびに行きます。行った時には、わたしが先生やく、おじいちゃんが生とやくで学校ごっこをしてあそんだり、トランプをしたりしてあそんでいます。

ごはんをたべる時もとなりにすわり、いろんなお話をしながらたのしくたべています。おじいちゃんはいつも、やさいがいっぱいでおさらの上はみどりでいっぱいです。わたしはそれを見ていつも、「うえー、おいしくなさそうだな…。」

と、思いながら見えています。

テレビを見る時もわたしは、おじいちゃんのおひざの上にすわったり、となりにすわってくっつき虫になっています。それを見て、いもうともおじいちゃんにくっついてきて、とりあいになります。今どはそれを見たおばあちゃんとおかあさんが、わらいます。

おじいちゃんは、75 さいになるけど、まい日あさ早くおきて、けんこうのために歩いています。そのあと会社に行って夕がたまでおしごとをしています。わたしはいつも、「すごいなー。」

と思います。

この前、おじいちゃんに

「わたしのしょうらいのゆめは学校の先生になることだけど、おじいちゃんのゆめはなあに？」

と聞いたら、なぜかおじいちゃんもおばあちゃんもおかあさんもみんながわらいました。おじいちゃんが

「なにかねえ…わかんないなあ。」

といったので、わたしが、

「じゃあ、わたしがしぬまで生きとくのゆめにしたら？」

というと、すごくよろこんでくれました。それを聞いたおばあちゃんとおかあさんが、なぜかすごくほめてくれました。

おじいちゃんには、いつまでも元気でいてほしいです。わたしがおばあちゃんになった時、今のおじいちゃんみたいに、子どもといっぱいあそんであげて、やさしい人になりたいです。

これが、わたしと大好きなおじいちゃんのお話です。



入選 大すきかぞく

三原市立糸崎小学校

2年 松 本 紳太郎

~~~~~

ぼくのかぞくは、おとうさん、おかあさん、おにいちゃん、ぼくの4人です。ぼくのかぞくは、おもしろくて、いつもみんなわらっています。

まいあさ、

「いってきます。」

と、ぼくが大きなこえで言うと、

「いってらっしゃい。」

と、おとうさんは、わらって言ってくれます。おかあさんは、手をタッチしてくれて、ぼくが見えなくなるまで見おくってくれます。にいには、

「しんたろう、バイバイ。」

と、言いながら、へんなかおをしてわらわせます。ぼくは、かぞくみんなの「いってらっしゃい。」のことばがうれしくて「きょうもがんばろう。」と力がわいてきます。

おとうさんもおかあさんも、あさ早くからよるおそくまではたらいしています。ぼくは、学校からかえると、にいといっしょにせんたくものを取りいれてたたんで、そのあと、しょつきをたなにかたづけます。おとうさんがかえると、

「せんたくもの、じょうずにたたんでいるね。」

と、ほめてくれます。おかあさんは、

「すごい2人でしてくれたん。」

と言って、わらってぼくをぎゅっとしてくれます。ぼくも、にこにこわらってしまいます。「これからまい日、お手つだいをがんばろう。ぼくにできることをしよう。」と思います。

にいには、ぼくより7つ年上の中学3年生です。にいには、はしるのがはやいし、サッカーは上手だし、かっこいいです。それに、ぼくを元気づけてくれたり、わらわせてくれたりして、とてもやさしいです。あそんでいたとき、こけてないているぼくのところにすぐに来て、

「だいじょうぶか。」

と言って、ほれいざいをもってきてぼくの頭にあててくれました。まだなくぼくを見ながら、にいには、へんなかおをしてわらわせてきました。ぼくは、なきながらわらいました。きゅうに、いたみが、なくなった気がしました。

「にいに、ありがとう。にいにのように、みんなにやさしくしていきたいな。」

ぼくは、かぞくみんなのことが大すきです。おとうさんやおかあさん、にいにがいてくれるから、ぼくはまい日元気にすごすことができると思います。ぼくも、お手つだいをしたりやさしいことばをかけたりして、かぞくみんなに元気をあげたいです。

「ありがとう、おとうさん、おかあさん、にいに。これからも、いっぱいわらおうね。」

「まさくんは、じんべいを着て、お店で和がしを売ってね。」

ぼくは、夏休みが始まる前のある日、あやのお姉ちゃんに急に言われました。あやのお姉ちゃんは、「きらめき☆星空まつり」で、しょう来のゆめの和がし屋さんを出店する事に決めていたのです。

「えっ、お店を出すことなんて出来るの？」楽しみにしていた「きらめき☆星空まつり」が、なんだか大変なことになりそうな予感がしました。でも、ぼくも家族といっしょにやらないと、この仕事は終わらないと思ったから、がんばろうと思いました。

お母さんがほけん所という所に行って、相談をすると、

「火を通さないといけませんよ。」

と、言われたので、ういろうに決めました。あやのお姉ちゃんが何度も作って、家族みんなで味見をしました。

あっという間に、7月22日の「きらめき☆星空まつり」の日になりました。朝早くから、家庭科室でういろうを作りました。そして、つくえやはりがみなどを用意して、お店のじゅんぴをしました。

お昼すぎから、お店を始めました。ぼくは、お金をもらって箱に入れたり、おつりをわたす係で、あやのお姉ちゃんはどういうふうにお茶をわたす係になりました。お父さんとあおいお姉ちゃんと、あおいお姉ちゃんの友だちは、ういろうやお茶を作って、追かする係でした。お母さんは、右うでをこっせつしているので、お店の後ろですわってアドバイスする係をしました。

ぼくは、お客さんが3～4人と大ぜい来た時に、パニックになりながらも、ぼくはお金をもらって、あやのお姉ちゃんは、おかしとお茶をわたしてと、きょうりよくして出来た時、力を合わせると一人で出来ない事も出来るんだと分かりました。

それから、ういろうがぜんぜん売れなかったから、となりの店のマネをして、和がしの事を知らせようと思いました。だけど、はずかしくて、声が出なかったので後ろのお母さんを見ました。そしたら、お母さんがとなりでいっしょに言ってくれたので、

「手作り和がしとお茶はいかがですか！」

と、うまくいきました。

こんなに大変だったのに、弱音をはいたりケンカをすることなくお店を楽しむことが出来たのは、ふだんからよくコミュニケーションを取っていて、相手の事がよく分かっているからだと思います。

ぼくは、家族が全員できょうりよくすると、それぞれダメな所を助けあって、自分が出来ないと思ったことも、何だって出来るんじゃないかと思いました。

ぼくの家族に、また新たな楽しい思い出が出来ました。ぼくは、こうやっていろいろな思い出がふえていくことによって、家族のきずなはふかまるのだろうと思いました。





入選

## おばあちゃんはエスパーなのかもしれない

広島市立宇品小学校

4年 木村 礼理

父方のおばあちゃんは、わたしから見ると「完ぺきな人」です。

おばあちゃんの家はいつ行ってもホテルのようにきれいにそうじされています。また、おばあちゃんの作る料理はどれも絶品で、特にお正月のおせち料理は見た目も味も料ていのもののようにすばらしいです。さらに気配りもすごいです。遊びに来たわたしたちがかいてきにすごせるようにありとあらゆることを想定してじゅんぴが整っています。

しかし、おばあちゃんがすごいのはそれだけではありません。わたしはひそかにおばあちゃんのことをエスパーではないかとうたがっているのです。

おばあちゃんは、わたしたち家族がひつようとしているものが言わなくても分かってしまいます。

例えば、お母さんが「そろそろお米がなくなってきたから買いに行かんとね。」と話していた2日後におばあちゃんからお米がいるかと電話がかかってきました。

また、わたしが大好きなネーブルマーマレードがそこをついてきたなと思っていたら、なぜかそれがとどきました。

他には、わたしと弟の冬用のコートが小さくなって、「今年は新しいのを買わないといけないね。」と話していると、何日か後に2人の冬用のコートが送られてきました。しかも、今までおばあちゃんから送られてきた服でわたしの好みではなかったのは1着もありません。

それから、わたしがいつかの合宿のじゅんぴをしているとき（ブラシじゃなくてクシがほしいな）と思っていたら、「礼理ちゃん、これ合宿のおせん別ね。」とおばあちゃんがかわいいクシをプレゼントしてくれました。

このように、「おばあちゃんなんで分かったの?」と思うような出来事が、本当にいくつも起こるのです。わたしだけではなく弟やお母さんもおばあちゃんのエスパーぶりにはおどろいています。

わたしはある時おばあちゃんに、どうしてわたしたち家族のひつようとしている物が分かるか聞いてみたことがあります。するとおばあちゃんは、うーんと少し考えてから、「なんとなくいるかなあ」と思って。カンかしら。」と答えました。わたしは（そんなにカンが当たるものなのかな。）とふしぎに思いました。

お母さんは、おばあちゃんはすごく気づかいができる人で、いつもわたしたちのことを気にかけてくれているから色々に分かってしまうんじゃないかと言っていました。

おばあちゃんはやさしいだけでなく、わたしたちを大切に思ってくれているからこそ、エスパーみたいになっているんだと思います。そんなおばあちゃんを、わたしも大切にします。わたしもおばあちゃんみたいになりたいです。

庄原市立高野小学校

4年 坂口 菜音

「さん観日、母さんなんで来んのんだろう。」

今朝は、

「さん観日に行くよ。」

と言っていた母さんのすがたが見えません。用事が出来たのかなぁと思っていたら、母さんと同じしょく場のお母さんが、

「お母さん、用事があって今日は来れんのよ。」

と教えてくれました。

家に帰ると、ばあちゃんが、

「母さんが、こっ折して入院したんよ。」

と言ったので、私は、ビックリしました。そしてとても心配になりました。母さんが入院して初めての日曜日、病院へお見まいに行きました。母さんは、ベッドの上で足をつっていました。私は、

「いたくない？」

と聞くと、

「いたいけど大丈夫よ。めいわくかけて、ごめんね。」

と悲しそうに言いました。母さんは、一人部屋だったのでさみしくないのかなぁと思いました。なぜなら、私の家は8人家族でいつもにぎやかだからです。私達が帰る時、母さんはとても心配そうに、

「ばあちゃんや、父さんの手伝いをして助けてあげてね。」

と言いました。

母さんが入院してから、私達の生活は大きく変わりました。母さんがいないだけで、ばあちゃんが大いそがしになり休むひまもなく家事をしていたので、私は、ばあちゃんの事も心配になりました。まず、私と姉ちゃんは自分のできる事をせいっぱいがんばりました。たとえば食器を洗うのを手伝ったり、洗たく物をたたんだり、ふとんをほすのを手伝ったりしました。

「ばあちゃん何か手伝うよ。」

と言うとばあちゃんは、とてもうれしそうでした。私は、ばあちゃんのえ顔が見たくて一生けん命がんばりました。ばあちゃんも、

「3人が手伝ってくれるから、たすかるよ。ありがとう。」

と、言ってくれたのでとてもうれしかったっです。今までは、ほとんど母さんとばあちゃんが家事をしてくれていて大変な仕事をまかせていたんだと知って、私は、ずっとらくをしていたんだなぁと思いました。家族のささえがあって、私は生活をしている事に気づく事ができました。今までは、ふつうにくらしていた毎日こんなにもたくさんのかべがあって、それをのりこえるには、私と姉ちゃんが、手伝うと、のりこえられる事も分かりました。母さんが、入院をして家にいない間、とてもさみしくて不安で大変だったけど、いろいろな大切な事に、気づく事ができました。

これからは、自分のできる事は、進んでやり、私が家族にとって、役に立つそんざいになりたいと思いました。



## 入選 家族っていいな

東広島市立高屋西小学校

4年 内田 稟 音

「生まれたんだって！女の子。」

8月5日に、2人目のいところが生まれました。私は、前々から「女の子がいいな。」と思っていました。なぜかという、私には弟しかいないし、初めてのいとも男の子だったからです。

5日の朝、おばあちゃんから、連絡がありました。私は、その知らせを聞いて、飛び上がりました。しかも私が願っていた女の子。「すぐに会いに行きたい。」と思いました。

次の日、家族全員で会いに行くことになり、私は朝からソワソワしていました。

病院に行く前に家族4人でお祝い選びをしました。それぞれの思いが違って、なかなか決まりませんでした。

やっとのことで病院に着くと、お兄ちゃんになったいとこのあまえて泣いている声が、4人部屋の部屋中にひびいていました。

「おいおい、お兄ちゃんになったんでしょ。」と、1才半からお姉ちゃんをしている私は、思いました。

生まれたばかりの赤ちゃんは、小さくて、赤ちゃんのころの私にそっくりでした。

私のお母さんが、最初にだっこさせてもらいました。なれた手つきでした。ふだん、赤ちゃんとしょにくらしていないので、気付かなかったけど、「やっぱり、お母さんだな。」と感じました。生まれたばかりの赤ちゃんは、私のお母さんがだっこしたら、安心したのか、ぐっすりねむってしまいました。

お父さんは、小さい子が大好きなのに、なぜかわからないけど、だっこしませんでした。「お父さんってば、だっこの仕方をわすれてしまったのかな……。」と、ちょっと気になりました。私が生まれたときは、一番にだっこして、誰にもわたさなかったって言っていたのにな。そんなことを考えていると、

「りお、だっこしてみる？」

とお母さんが言いました。赤ちゃんが大好きな私は、だっこさせてもらうことにしました。生まれたばかりの赤ちゃんは、とても温かくて、私のうでが冷たくないか心配になりましたが、ぐっすりねむっていて、安心しました。顔も手も、足もつまも何もかもが小さくて、本当にかわいかったです。

弟が赤ちゃんだった時の記おくはあまりないけれど、私の時も、弟の時もこうやってみんながだっこしてくれたんだろうな、と想ぞうしました。特に、弟は早産だったので、お父さんやお母さんはゆっくりだっこする時間もなくて、お姉ちゃんになった私は立入禁止で、しばらく会えなかったそうです。今、家族4人がそろって、いところが生まれたことをお祝できるのは、当たり前なんだけど、幸せなことなんだな、と思いました。

この日から、いとこの家族も4人家族。これから、私の家族みたいにたくさん楽しいことが待っていると思います。家族っていいな。

## 入選

## そう祖母のように

東広島市立西条小学校

5年 山下 桜 和

そう祖母との別れ、それは突然だった。

そう祖母は、102 さいで苦しまず静かに旅立った。私たちがかけつけて、ひつぎの中を見ると、まるでただねむっているだけで、今にも起き上がりそうだった。

そして、私たち家族は、いろいろな思い出を話した。

まず、102 さいまで生きることが出来たことへのおどろき、どうしてそんなに長く生きることが出来たのだろうか。このぎ間に、父が、

「しっかり食事を食べていたことと、90 さいを過ぎても体を動かし、農業をしていたことだ。」

と答えてくれた。

そう祖母は、食事をとる時、いつも

「おいしい。おいしい。」

と言って食べ、食べ終わると、

「ごちそうさま。」

と深々と頭を下げる等、感謝の気持ちを忘れなかった。

また、野菜作りがとても上手で、祖父が野菜作りを教わっていた。そう祖母と祖父が作った新せんな野菜をたくさん食べさせてもらった。

さらに、私がおどろいたのは、新聞を毎日読んでいたことだ。私が知らないニュースの話も何度も聞いたことがあった。そのニュースに対して自分の意見も持っていた。体も頭も使って生活することは、いつまでも元気でいれたひけつだと思う。そう祖母本人も 105 さいまで生きることを目標にしていた。目標を持つことは、大きな力になると思った。

今、社会は、ちょう高れい社会に向かっている。その中で一人でも多くの人が、いかに元気にとしを重ねることが出来るかは、これからの日本の大きな課題になって行くだろう。家族でそう祖母のように、元気で長生きするためには、これからどのような生活をして行かなければならないのかを話した。

そう祖母は、姉や私の名前を間ちがえたり、わたしが小学生になっけていても、

「大きくなったね～3 さいになったんか～」

と言ったりする。みんなが大笑いして

「もう小学生よ。」

と教えてあげる。すると、そう祖母も笑ってくれる。そんな楽しい会話もう出来ない。

毎年、祭りの時は、父の実家の安芸津に行き、一緒に食事をしていた。そう祖母は、好ききらいなく、おいしそうに何でも食べていた。私は、好ききらいが多いけれど、少しずつ見習って行きたい。それだけではなく、食事がとれることへの感謝も忘れてはいけないと思った。

そう祖母は、戦争の時代に3 人の子どもを育てながら、決してゆう福ではない生活をしてきた。そういった経験から食事への感謝の気持ちが自然と表れているのだと思う。私はいつでも好きな物を食べようと思えば、食べられる。それが当たり前だと思っていた。そう祖母が亡くなり、いろいろな話を聞いたので、考えを変えようと思う。

たくさんの苦勞もしていたんだと初めて知って、満足に食べる物もない時代を乗り越え、最後まで、元気に過ごしてきたそう祖母は、本当にすごいんだと思うし、私の自まんです。





## 入選

## いつも思っている事

福山市立御幸小学校

6年 小 嶋 さくら

私は、家族にいつも思っていることがあります。それは、「感謝」という気持ちです。楽しい時も、つらい時もずっと支えてくれていてくれるからです。

私は、運動が苦手です。運動会での組体操などは、少し憂うつな気持ちになってしまいます。でも、家族は、私を信じて応えんしてくれます。それだけで「よし、もう1回チャレンジしよう。」という気持ちになります。そして、私には、7歳離れた兄がいます。兄は大阪の大学に通っていて、離れた所で暮らしています。兄も大学で勉強だけでなく、いろいろなことをがんばっている事がメールなどから伝わってきます。そんな兄を見て、私も「がんばろう。」と思えるし、兄を支えているのも、父と母で、私は家族全員から元気をもらっています。

そして、もうすぐ習い事のピアノの試験があります。不安などで暗い気持ちの私に母は「さくらなら大丈夫だよ。」

と勇気づけてくれたり、料理中に練習していると、いため物をお皿につぐ時の音でリズムをとってくれたり、少しでも明るく、楽しく練習できるようにしてくれています。

そんな中、少しふり返ってみました。「あれ、私、感謝の気持ちをちゃんとみんなに伝えられているかな。」「あっ、あの時、ありがとうって伝えられてないかもしれない。」と思いました。母の日、父の日、家族の誕生日には言っているかもしれないけれど、いつもは「ありがとう」といえていないかもしれない気付きました。そこで私は、「しまった、もっとちゃんと伝えないと。」と思いました。だから私は、「いつもありがとうプロジェクト」を自分の中で作りました。「いつもありがとうプロジェクト」とは、家族に私がありがとうと伝えなきゃという時に絶対に伝えるプロジェクトのことです。さっそく実行しようと思いました。が、なかなか素直になれず、最初は伝えられませんでした。そこで作戦を変えました。まずは、自分が出かける時には、

「行ってきます」・「ただいま」

を必ず言う。そして、家族が出かける時には、

「行ってらっしゃい」・「おかえり」

を必ず言うことにしました。こっちは成功しました。それを毎日つづけていくうちに、「ありがとう。」という言葉も自然に出てくるようになりました。

私は、「ありがとう」という言葉は魔法なんじゃないかなと思いました。理由は、自分も相手も笑顔になるからです。そして、私の大好きな言葉になりました。これからは、自分の気持ちをちゃんと家族に、みんなに伝えたいと思いました。

そして、私は、本当に家族に感謝をしています。

東広島市立西条小学校

6年 川 石 和 果

私は夏休みに入ってすぐ、入院することになりました。何年か前から、へん桃腺が大きくなって手術をしたほうが良いと言われたからです。先生からの説明で、へん桃腺の事は分かったけれど、全身まずいでする事や手術の後の事など説明してもらっても想像できなくて怖かったです。けれども、入院は初めてで、キャンプや旅行に行くものではないとは思っていたけれども、楽しみでもありました。

入院した時は、痛いところがあるわけではなかったし、ベッドでゴロゴロして、テレビは見放題だったし、入院前のワクワクが少し大きくなりました。この夜は、お母さんが帰ってしまうと一人で病院に泊まらないといけなくて、心細くなってしまってさみしくなりました。

手術の日よくねれてきん張しなかったし、お父さんがずっと一緒にいてくれて安心していましたが、さすがに手術室まで行って点滴をうでにしたときは胸がドキドキし始めました。台の上にのぼってマスクをされると、全くわからなくなりました。起こされて目が覚めると、手術は終わっていました。次に目が覚めると、病室でお父さんやおばあちゃんが見えました。夕方来てくれたお母さんを見たときに、涙がぼろぼろと出てきました。自分でもびっくりしたのだけれど、思わず泣いてしまった私をお母さんがぎゅっと抱きしめてくれて、

「よく頑張ったね。」

と言われてると、もっと涙が出てきてわあわあと泣いてしまいました。それを見ていたおばあちゃんが、入院中泊ってあげると言ってくれてとても安心しました。

手術の後は、手術でとったのどが痛くて、つばをのみこむのも、声を出すこともつらくて仕方がない状態だったので、ご飯の時間は苦痛な時間でした。そして、病室から出ることを止められていたので、ずっとテレビばかり見ていましたが、あきてしまいました。そんな時、お母さんが来てそばにいてくれると、声を出して話をできなくても、あきてしまったテレビも少し面白くなりました。そして、お母さんが持ってきてくれる手紙や絵は、妹たちが私のために作ってくれたもので、いつもは何でもない物だったけれど、とても楽しみで仕方ありませんでした。

入院中、1日だけお母さんが泊まってくれてた日に、病院の近くの小学校で夏祭りをしていて最後に花火があがりました。初めての入院は思ったほどいいものではなかったけれど、花火のおかげで退院の日までもう少しがんばろうと思いました。

退院の日はやっと帰れると思うとうれしくて落ち着きませんでした。のどはご飯を食べるのにまだ痛み止めがいることもあるくらい、まだ手術前ほどには戻っていなかったけれど、家に帰るとほっとしました。

入院中、あんなにうるさいと思っていた妹たちや、おこってばかりのお母さんがいるだけで、とても安心する自分にびっくりしました。入院生活をしてみて、家族みんなと家ですぐすことや、元気なことはよいことなんだと改めて感じました。今まではそんなに気にかけていなかったけれど、これからはもっと家族のことを考えて、大切にしないといけなのだなあとと思います。病院で見た花火はきれいだったけれど、家族で一緒に見ると、もっときれいに見えたと思いました。



## 入選 家庭について

熊野町立熊野第一小学校

6年 船田 龍斗

~~~~~

ぼくは、母さんと自分の2人でくらしています。父さんが家にいないことについては、家で話したことはありません。母さんと気まずい空気になりたくないの聞いていません。でも父さんがいないから困ったこともあるし、成長できたこともあります。

父さんと母さんが別れたのは、自分がまだ保育園のころでした。その場の空気で察したぼくは、とても泣いたことを覚えています。しかし、小さいころにそのような体験をしているからこそ、少しのことでは泣かなくなりました。そして、大事な人がいなくなることの悲しさ、さびしさを知りました。だから、友達を大事にすることの大切さを知りました。そして、あまえなくなりました。いつも自分は父さんにあまえていたので、今度は母さんにあまえようとしていました。でも、それでは、母さんに、よけいな苦勞をさせてしまうことになると思ったので、自分のことは自分でやる、人に任せないなど、自立への一歩を少し早いけど歩き始めることができました。さらに、一人の大変さを知りました。自分のことは自分でやるようになったので、洗たく物を出す、食器を片づける、着替えを出すなど小さなことでも1つ1つやっていくと大変だと思いました。

そして何よりも転校です。父さんがおらず、母さんの給料や母子手当などで生活し、県営住たくでくらしていたので、ぼくが3年生になると、県営を出なければいけませんでした。母さんの給料だけでは、町内には、いい物件が見つからず、今いる熊野町に引っこすことになりました。3年生の終わりに転校して来たけど、友達がたくさんでき、転校といういい体験ができたのも今思えば父さんのおかげだったのかなとも思います。

しかしいいことだけではありません。

1つ目は、遊び相手がいませんでした。家に帰っても、母さんは家事でいそがしいので「遊んで。」という訳にもいかないので、一人でテレビを見るか、ヒーロー物の人形を並べて一人で遊ぶくらいしかありませんでした。

2つ目は、欲しい物が買えませんでした。まわりのみんなは、流行していた物を買ってもらっていましたが、父さんがいなかったで、家計が苦しく、買ってもらうことができませんでした。

3つ目は、友達からの一言です。友達に、

「ふっちゃんのお父さんは何しよん。」

と聞かれた時に自分の記おくに残っているあいまいな答えしか出せていません。

4つ目は、母さんの仕事の量です。本業だけでなく、アルバイトもして家計を支えてくれています。

小さいころの経験がないと今の自分ではないと思います。いつも働いて、支えてくれる母さん、自分を成長させてくれた父さん。本当にありがとう。

三原市立第二中学校

1 年 河 野 萌 香

私の家は 4 人家族です。私は中学生になって初めて胸を張って 4 人家族だと言えるようになりました。その訳を書きたいと思います。

去年までは母と妹の 3 人家族でした。名前も今と違っていました。母は、妹が産まれてすぐに離婚し、しばらくは大変だったそうです。何度かパパと会ったりもしていましたがそれもなくなりました。それでも私は、寂しいと感じた記憶がないので、きっと母は頑張ってくれていたのだと思います。

それから、気が付けば今の父がいました。当時はたまに休みの日に遊んでくれる、「お兄さん」という感覚で、特に何も気になってはいませんでした。小学生になると、パパの顔もうっすらとしか思い出せなくなりました。「あの人がお父さんになってくれたらいいのに……」

会いたい時に会えて、休みの日には楽しい所へ遊びに連れて行ってくれる。悪い事は、ちゃんと叱ってくれて、頭を優しく撫でてくれて抱きしめてくれる。私は強く、強く、この人にお父さんになってほしいと願いました。でもこの気持ちを母に言うてはいけないような気がして、言えませんでした。すると母が

「もしも、あの人がお父さんになってくれたらうれしい？」

と聞いてきたので、とても驚きました。私も、妹も、答えはひとつ。

「もちろん！」

それから、母と父がどんな話をしていたのかは、私には分かりません。母が結婚すると言う前からいつも私達は仲が良く、私は幸せな気持ちになっていました。だからそれでもいいのかなとも思いました。

私が小学 5 年生の時には、父の故郷に連れて帰ってくれました。その時に、新しいおばあちゃんとおじいちゃんができました。2 人とも優しく、面白い人で、少し人見知りだった私でもすぐに慣れました。

気が付くと、血が繋がっているだとか、繋がっていないだとか気にならなくなっていました。そんな中、母から

「籍を入れるんだけど、名前どうしようか。中学生になると同時にしようかね？」

と聞かれました。私は、

「すぐがいい！」

特に何か変わるわけではない。生活が今と変わるわけではない。お兄さんからお父さん変わったからといって気持ちが変わるわけでもない。ただ、とにかくうれしかった！胸を張って、父と同じ名前が名乗れる！それがすごくうれしかった。血は繋がっていないけれど親子になれたことがすごく誇らしかった。周りの友達も、「よかったね！」や「すごいじゃん！」と言って、すぐに受け入れてくれました。

こうして今、父のことを堂々と書けることをうれしく思っています。私の家族は 4 人です。優しい母と、可愛い妹と、大好きな父と私の 4 人家族です。これからも仲よし家族でいようね。



入選 目標に向かってやりとげた母

東広島市立磯松中学校

1年 植本 歌鈴

私の母はエブリー御園宇店で2年間頑張り、7月末で退職し、次のステップへと進む事に決めました。母が入社したのは今からちょうど2年3カ月前の平成27年4月でした。その時私は5年生で弟は3才でした。

弟が小さいため、最初は5時間パートからのスタートでした。オープンしたばかりの御園宇店は、毎日、朝から晩まで行列はとぎれる事はありませんでした。レジから鮮魚コーナーまで並ぶ行列で、母は、「毎日、打っても打ってもとぎれない。」と毎日帰ってくると、家の中でバタリと倒れこみました。家族みんなで、心配しました。それから間もなく、行列も落ち着くと、母はパートから7時間のパートを目指したいと言い始めました。父は、「家族のことも考えて、5時間のまがいいよ。」といいましたが、母は、生き生きした眼で、これからどんどん上を目指したいと言いました。私は、母のこんなに強い決心をした顔を見たのは初めてでした。何がこんなに母をかりたてているのだろうと不思議でした。7時間になった母は、少し疲れた顔で帰ってくる時もありましたが、とても充実している感じで、家族4人で夕飯を食べる時は、毎回、その日にあった、お客様の面白エピソードや、母のおっちょこちょいエピソードで家族をわかしてくれました。7時間パートを10ヵ月頑張った3月、店長さんから社員になって欲しいと頼まれました。母は二言返事で、その場で社員になる事を決めて帰ってきました。私は母の目標がずっと社員になる事だと分かっていたので、おめでとうと言いました。父は不安そうな顔をして、

「大丈夫か？無理するんじゃないか。」

と言いました。ですが、母は頑として、社員になるのが目標なので、家族に迷惑かける事もあると思うけど応援して欲しいと言いました。父もその決意の固さを聞くと、みんなでママを応援しようと言いました。母はうれしそうな顔をしていました。それからと言うもの、社員は想像を絶する程の過酷さを極めました。朝は6時に起きて弟の支度をして、バタバタと保育所に送り出勤して、夜は家に帰るのは、10時でした。月に休みはほとんどなく、休みの日も急に休んだ人の変わりに出勤しました。社員になってからは、弟や私の参観日、運動会、発表会にも出れず、土・日に休みをとれる事はありませんでした。唯一、学校に来れたのは、私の小学校の卒業式でした。内心、他のお母さんたちを見ると、うらやましかったです。疲れているお母さんを見るのはつらかったです。ですが、あんなに頑張っていた母も、とうとう退社することを決心しました。辞めるなんてありえないと思っていましたが、退社を決めた母はとてもすがすがしい顔をしています。今、母は次のステップを目指して、次の会社に引き抜かれて頑張る事に決めました。今は有給休暇で家でゆっくりしています。母は今までの分、リフレッシュしています。とても、生き生きしている母が私は大好きで尊敬しています。これからも応援していきたいです。

東広島市立西条中学校

1年 功 野 尊 琉

僕のところに妹がやってきたのは、ちょうど1年半前のことだ。雪が舞うその日、僕の妹は生まれた。

そこから7ヵ月前、僕は赤ちゃんが生まれることを知った。初めてそのことを知った時僕は、いっしゅん固まってしまった。僕は11年間一人っ子だった。そんな僕に弟か妹ができる。しんじられない気持ちになって固まってしまったのだ。でもそのうち、僕はじわじわとニヤケ顔に変わってしまった。兄弟のいる生活を僕は想像した。毎日が楽しみで楽しみでしかたなかった。当時入っていた絵手紙クラブの大根の絵に「出産おめでとう」と書いて、生まれてくるのを首を長くして待っていた。

そして、やっとその日がやってきた。待合室での時間は、とても長く感じた。無事に生まれてくるかとても心配だった。生まれたという知らせを聞いて、僕は待合室を飛びだしていった。

妹がやってきた。初めて見た妹は、とてもとても小さかった。これが僕の妹。天使のようだ。初めてのだっこ。だっこしたらより小さく感じた。命の重みを感じた。かわいい妹が、僕のところにやってきた。

生まれて2日目。妹は救急車で県病院に運ばれた。僕はこの知らせを聞いて、暗闇の中にひきずりこまれたような気持ちになった。あの絵手紙と妹をいっしょに写真に写そうと思っていたのに…。

僕は、県病院では妹に面会することは、禁じられていた。それでも、毎晩、県病院に通った。どうか元気になりますように。と僕は一人で神社にも行った。

3週間後、僕は妹に面会できた。ハッポー。飛びあがりたいぐらいの気分だった。初めてミルクをあげた。かわいいな。妹はほ乳瓶をにぎっていっしょうけんめいミルクを飲んでいった。

ようやく妹は、退院した。僕はずっと妹のそばにいた。ずっとそばで守ってあげたいと思った。

それから、妹はすくすくと成長した。1才半になる今日まで、いろんなことがあった。ねがえりができるようになった。一人で座れるようになった。つかまり立ちをして一人で歩けるようになった。その度に僕は、「すごい、すごい。よくできるようになったね。」と妹をほめた。僕は、妹の1つ1つの成長がとてもうれしかった。

最近、妹は僕のことを「たーちえー」と呼ぶ。呼ばれると僕は、どんなときでも飛んでいく。僕は妹にメロメロなのだ。妹と遊んでいると、兄妹がいるって幸せだなと思う。

妹がやってきて、僕は毎日ほんわかした気持ちになる。これからまだまだ妹は成長していく。おしゃべりができるようになったら、いろんなことを、たくさんたくさん話したいです。いっしょにいろんなことをして遊びたい。

兄妹のいる生活は、これから先もずっと楽しいだろう。



入選

今幸せな暮らしができる理由

坂町立坂中学校

1年 崎岡 菜摘

幸せな暮らしができる。いつも笑顔でいられる。これは、あたり前に感じるけど全く、あたり前じゃない。でも私は、こういう生活が送れている、それはやっぱり、家族がいるからではないだろうか。

私は、悩み事を自分の口から発することは苦手だった。その事は、家族のみんなが知っている。私は、低学年の頃、泣いて帰ってきたことがあった。でも、家の前まで着くと顔をふいて、下を向き、玄関を入り、母の「おかえり」の言葉も無視して、自分の部屋に行った事があった。そして自分の部屋で泣きじゃくった。思う存分泣いたら部屋を出てリビングに戻る。すると、母親はニコッと笑顔で

「ごはんができるよ。」

と言った。何もなかったかのようにふる舞ってくれるのが心から嬉しかった。

小学6年生の頃、また私は泣きながら帰った。学校で、すごく嫌な事があった。いつものように、顔をふいて、駆け足で自分の部屋へ行った。その日は、たまたま父と兄がいて、「ど、どうした!？」と驚きの声をあげていた。また、私は、ずーっと泣きじゃくった。そして、少し心が落ちついたらリビングに戻る。今回は、家族全員に見られたから、色々聞かれそう…と思ってドキドキしていたら

「あ、菜摘。今日の夜ごはん、うまそうで。」

と、いつも通りの話をしてくれた。私はすごく嬉しかった。私が、色々悩み事を言うのが嫌なことを分かっているのに対応してくれた事に本当に涙が出そうだった。その夜私は、頑張っ、その日あった事を母親に相談した。すると母は、

「大丈夫よ。みんな、菜摘の味方よ。自信持ちなさいよ。」

と優しく言ってくれた。「菜摘の味方よ」の言葉に涙が止まらなくなってしまった。

卒業式、母から手紙をもらった。見ると、家族のみんなからの優しい言葉が書かれていた。私は、みんながいることを忘れて、泣いてしまった。私はその時、すごく幸せな気持ちでいっぱいだった。

私は、この13年間、色々な人達と関わって、今の自分がいると思う。そんな中、家族が、何も知らない私に、生きていくために必要な事を教えてくれた事にちがいない。ときに厳しく、ときに優しく、私の事を一番に考えて対応してくれた。本当に私は恵まれていると思う。

これからは、自分の将来は自分で歩み、目標に近づきつつも、家族のことも忘れずに、1日1日を大切に過ごしていきたい。まだまだつらい事は沢山あるけど、あの日、母が言ってくれた「みんな、菜摘の味方よ」を心におさめて、がんばっていきたい。

ありがとう。私の自慢の家族!

家庭にとって大事なことは何でしょうか。それは相手を認めることだと思います。

私の家族は、父・母・私の3人です。父は普段は明るいですが、時々急に暗くなります。仕事で忙しい時や、疲れている時、それと何があったのか分からないけど暗い時があります。父が暗いとすぐ分かります。たとえば、「おかえり。」と言っても笑顔が無い時、母が話しかけても目を合わさない時、顔の表情がいつもと違う時などです。そういう時私は、何かあったのかなと接しづらく感じます。そして、私まで気持ちが暗くなります。学校で嬉しかった事があっても、家に帰ると暗い気持ちになり、父にあまり話しかけません。

でも、母は気になって話しかけます。最初は明るく声をかけていますが、段々母も暗くなり父に対して攻撃的になります。そして、父の文句を私に言ってきます。テレビを観ていても、私にだけ話しかけるようになります。そういう時私は、「お父さんにも話しかけてあげて。」と思います。

父は、そっとしておいてほしいと思っています。元気が出るまで、待っていてほしいのだと思います。でも、「疲れてるからそっとしてほしい。」の一言が言えないために、母が何か特別な理由があるのではないかと、余計に気になって、不安になって色々聞いてしまうのだと思います。

家庭において、お互いが気持ち良く過ごせる事は、とても大事だと思うし、元気の源になって、より家族愛が深まると思います。そして、家族愛が深まると、友達や周りの人にも、優しく気持ち良く接することができると思います。それぞれの家庭によって、その方法は違うけれど、私の家では父が疲れている時、母がそういう時もあると理解して、そっとしてあげられるようになったら、父もいつの間にか元気になって、家庭がいやしの場所になるのだと思います。

私は、家族それぞれ考えている事は違うけれど、それを直接言い合える家族になりたいです。家族だから、何も言わなくても分かるとは限りません。朝家を出てから帰ってくるまで、学校で職場で色々な人に会って、色々な出来事が起こります。毎日嬉しい事ばかりではないし、面白くない事や悲しい事も起こります。私も朝は元気でも帰ってきたら暗い時があり、それは父も母も同じだと思います。

でも、何も話さなければ何も分かりません。家庭が一番快適な場所になるように、そして一番の元気の源になるように、家族全員の努力が必要だと思います。自分の考えや思いを伝える事、そして相手を認めて思いやる事だと思います。

私も、家族の一員として相手を思いやる心と、自分の気持ちを伝える努力をしていきたいです。



入選 伝える

東広島市立西条中学校

2年 有 松 大 翔

幼い頃は家族に今日あった出来事を包み隠さず話せていたが年を重ねるにつれて家族に日々の出来事を話す機会は減っていった。

でもそれは中学生の男子としてはあたりまえだと思う。

しかし、会話をしないということは仮に親が僕のことを信用していたとして僕が普段の生活で、トラブルが起きたときに話さず黙っていれば誤解を招きかねない。

確かに中学生は自分も含めてだが、何も包み隠さず話すのはむずかしいと思う。

だから、これから家族とのコミュニケーションをとることの大切さを自分の体験を交えて話そうと思う。

ある日、知り合いとの間でトラブルが起きた。そのトラブルが起きた直後は少しパニックになっていて、周りの人（親）には話さず、事を済ませようと思っていました。

しばらく時間がたって自分が冷静に考えてみたとき「本当に子供だけで解決していいのだろうか」という気持ちが大きくなっていった。

僕は大人に話せば適切な対処をしてくれると分かっていた半面、話を大きくしたくないという思いがあった。

僕は考えた。もし、そのまま黙っていたら残るのは罪悪感と知り合いとの悪い関係。しかし素直に打ち開けることができれば、大人が適切な対処をしてくれ、ちゃんと解決してくれる。

良いのはどちらかと考えたときやはり僕は親にすべて話すべきだと思った。

そうして僕はちゃんと親にすべて話した。そうすることでトラブルを無事解決でき、知り合いとの関係も直すことができた。そして親には

「素直に話してくれてうれしいよ。」

と言われた。

僕は素直に話してよかったと思った。黙っているのは一見怒られずに済むように見えるがそれはただのその場しのぎであり結局困るのは自分だということ。

まだ、中学生は未成年であり、自分で責任をとることができない。確かに自立して大人に近づくために一人で物事を考える、というのももちろん大切だがまだ子供だ。

その場で冷静な判断、そして適切な対処ができる大人に頼るのも大切だ。

普段あまり自分の身の周りの出来事を勇気を出して素直に話すことも「自立」への一歩なのではないか。と感じた。

もちろんトラブルが起きたときに頼るというものだけではない。

普段から家族とコミュニケーションを取ることが大切だと思う。

その体験があり、僕は相談できる人がいる（家族）のありがたさを知った。

これからは話せる人がいるありがたさを日々感じながら積極的に家族とコミュニケーションを取り明るく、楽しい家族になれるよう、頑張っていきたい。

廿日市市立野坂中学校

2年 伊 藤 暖 人

僕の家族は、野球を軸に回っていると言っても過言ではないほど野球に熱心な、「野球一家」です。

もちろん僕は中学で野球部に入っています。そして、もうすぐ11歳になる弟も地元の少年軟式野球チームに所属しています。僕もその卒団生です。両親はその事務局をやっています。両親は事務局になってから、弟のチームのことに大忙しで、僕の野球にはあまり来てくれません。忙しいから来れないのは分かっているけど、本当は少しだけさみしいです。父も母も、行くことができないことを時々謝ってくれるのですが、あまり気にしていないふりをしています。

両親はチームにとって欠かせない存在なので、遠征や試合や会議などには必ず出席します。朝起きて、親が弟の野球のために早く出て、家に誰もいないと悲しくなり、腹立たしくなります。「もっと僕の野球を見てほしい!!」という気持ちがふくれ上がります。しかし、言ってもどうすることもできないので、がまんしています。

ついこの間、弟と母が5日間高知県に遠征に行っていました。その時は父はいたので良かったのですが、5日間も家族がいないとやっぱりさみしくなります。弟のチームは今年はとても強いので、どうしても県外の大会に出たりしないといけません。そう思うと、あと十何日も家族が、いないことになります。そう考えると悲しくなります。

僕自身もそのチームに時々顔を出します。その時の両親を見ると、監督やコーチがなぜうちの両親を気に入っているのかが分かる気がします。とても熱心に手伝いをしているので、弟たちはのびのびと野球ができていると思います。僕もあのチームの中に戻りたいとどうしても思っています。

僕がチームに入る前は、プロ野球観戦や遊びに行ったりすることも多くありました。しかし、チームに入ってからそういうことはあまりなくなりました。そう考えると、家族の時間を奪うきっかけを作ったのは自分だった。自分が野球を始めたからこのようなことになってしまったんだということにいたりしました。両親、そして家族を「野球一家」に引きずりこんでしまったのは僕かもしれません。親も仕事があり、せっかくの休日なのに、子どもの野球に振り回されて申し訳ないと思います。そう思うと、あまり上手じゃない僕達兄弟を、自分の時間を削りながら熱心に応援してくれている親には、頭が上がりません。

そんな僕の夢は、弟と一緒にプロ野球界に入ることです。そうすれば、少しでも親に楽な生活を送ってもらえると思います。これは僕にできる精一杯の恩返しだと思っています。だから、父に教えてもらった野球、母から授かった根性を武器に、いつか夢が叶うようにこれからも努力をしたいと思います。



入選

大きな背中

広島市立五日市中学校

3年 津田 和輝

僕は今までいろいろな人の背中を見て育ってきました。祖父母や先生、先輩やコーチなどの背中はとても大きくて、早く僕もあんな風に大きくなりたいなあと思っていました。その中でも特に大きく偉大だったのが両親の背中です。

小さいときは、自分の体が小さかったので見た目が大きいという印象が強かったです。また、何度か小さいときにおんぶをしてもらうことがあったのですが、なんて大きくて温かい背中なんだととても驚いたのを覚えています。

しかし、成長して体が大きくなってくると、親と身長があまり変わらなくなって、以前のように親の背中を大きいと感じることがなくなってしまいました。それと同時に、少しずつ生意気な態度をとることも増えてきて、親とケンカをすることも少なくありませんでした。

そして小6の夏、小3からやっているソフトボールの大会を翌日にひかえたある日、小さなことで親とケンカになってしまいました。ケンカはどんどん激しくなって、いつもはケンカをしても暴言を言ったりはしないのですが、思わず、

「うるせえんだよ！」

と叫んでしまいました。叫んだ後、親は何も言わなくなり、僕もそのまま寝てしまいました。翌日、仲直りできないまま大会へ行きました。暗い気持ちではあったのですが切り換えて試合に臨みました。結果、僕の3ベースヒットもあり、チームは優勝しました。皆は優勝して喜んでいましたが、僕は昨日の事をまだ引きずっていて暗い気持ちのままでした。皆と離れて一人で帰る準備をしている時、

「和樹。」

と呼ばれたので振り返るとそこには両親が立っていました。そして、

「ナイスバッティング。昨日はゴメンな。帰ったら一緒にお祝いしような。」

と優しい口調で言い帰っていきました。もう身長はほとんど変わらないはずなのに、その時僕が見た二人の背中には、大きく、優しく、そしてとても偉大な背中でした。

あれから3年経ってずいぶん身長が伸びた今でも、二人の背中はとても大きく偉大なままです。僕も少しでも二人に追いつけるよう、体ばかりではなくて、人間として一人前になれるよう心も成長させていけるようがんばりたいと思っています。

広島市立牛田中学校

3年 海 道 由 佳

「じいちゃん、遊んで。」

これは私がまだ小学生の頃、おじいちゃんの家に行ったとき必ず私が言っていた言葉だ。おじいちゃんは私のわがままに対して嫌な顔一つ見せずに何でもしてくれた。サッカーしたいと言えば空き地まで行って疲れるまで相手をしてくれたり、流しそうめんがしたいと言えば竹で流しそうめん器を作ってくれたりした。おじいちゃんとの楽しい思い出はいくらでも出てくる。私たちのためなら何でもしてくれるとても人思いで元気な自慢のおじいちゃんなのだ。

そんなおじいちゃんだったが、近ごろは病気にかかり、入院・手術を繰り返していた。だから、叔父や母はもう一人暮らしは無理だから一緒に暮らそうと何度も提案してみるが、おじいちゃんは一度も首を縦に振ろうとしなかった。家族には迷惑をかけたくないらしい。人思いのおじいちゃんらしい意見だなと思った。また、おじいちゃんは毎日野菜を育てたりするのが好きだからやめたくないとも言う。おじいちゃんは自分の作った野菜をたくさんくれる。確におじいちゃんの野菜は味が濃縮されていてとてもおいしい。そこまで一人暮らしが良いと言うならとりあえずこのままでいこうとなったが、私たちの不安は大きくなっていった。もし、倒れてしまったときにそばに誰もいなかったら？ということだ。そして、それが今回起こってしまった。

ある日、

「おじいちゃんが倒れて救急車で運ばれた。」

という電話が叔父からかかってきた。どうも夜中に外にあるトイレに行こうとしてこけてしまい、なぜか起き上がれずそのまま意識がなくなり、体温が30度まで下がったそうだ。奇跡的に近所の人が見つけてくれて、すぐに救急車を呼んでくれたから一命をとりとめたものの、誰も見つけてくれなかったら、と思うと怖くなる。そしておじいちゃんは少しばかり入院することになった。数日後、母はおじいちゃんの入院している病院へ行った。おじいちゃんは弱々しかったそうだ。私はおじいちゃんの弱々しい姿が全く思い浮かばなかった。おじいちゃんの元気で楽しそうな顔しか見てこなかったから。私は悲しかった。おじいちゃんは2週間で退院できた。しかし、相変わらず一人暮らしのままでいいと言う。だから私がおじいちゃんにしてあげられることはあまりない。唯一してあげられることといえば毎日電話してあげる事だ。元気な声をおじいちゃんに聞いてもらって少しでも元気になってほしい。そう思う。

ずっと元気で強いおじいちゃんではいられないという事はわかってはいたけれどやはり悲しい。今の楽しい生活もいつか変わってしまうのだろう。朝、おはようと言ったらみんながおはようと言ってくれる生活、家族みんなでいただきますと言える生活、こんなささいなことでもいつかは変わる。だから今ある一瞬一瞬を感謝しながら生きようと思う。

私の両親は、私が物心がつきはじめた頃に離婚した。まだ「離婚」という言葉さえも聞いたことのなかった当時の私には、どうして母が一度だけ涙を流していたのか、なぜ父が毎日帰ってこなくなったのか、不思議でしかたなかった。

謎が解けることもないまま、私は祖母と祖父、母の兄が暮らしていた家に、母と引越した。そして、家の近所にあった保育園に入園した。その保育園では、たくさんの友達もでき、慣れてきた頃にはいつも笑顔で通うようになって、母は助かったらしい。

私が両親の「離婚」について、うすうす気づいてきたのは保育園で父母の似顔絵を書き、その作品を渡すという取り組みがあった時だ。その絵を書くとき、母の似顔絵はすらすらと書けたのだが、父の顔は思い出すことができなかったのか、うまく書くことができなかった。ふと先生が声をかけてくれた。

「あなたは、お母さんのお兄さんの似顔絵を書こうね。」

と。そこで私は確信をした。私の両親は「離婚」をしていて、周りの子の家庭とは少し違うんだということを。この後も、家族に向けて作品を作ることはあった。けれども、まだ自分のことも一人では全部できない年齢で、人のことを考える余裕もなかったので、人と少し違うということを余り気にしていなかった。

それから私は、小学校に入学した。緊張する中、初めてのことが続きすごくワクワクしていたのを覚えている。見たことのない平仮名や漢字、算数の勉強など保育園とは違う楽しさがあり、毎日充実した生活を送っていた。しかし、両親の「離婚」について気にし始めたのは、友達との会話である。それは

「お父さんはお仕事何してるの？」

というひと言だった。この言葉だけを聞いても何がいけないのかと、疑問をもつ人は多くないだろう。しかし、そのときの私は違った。父がいないということを悪い意味でしかとらえることができず、友達の反応を見るのが怖かった。だんだん年齢が上がるにつれて「お父さん」という言葉が出てきたとき、いつも頭の中で混乱してしまっていたことを、今でも覚えている。

中学三年生になった今、私が感じることは母の娘として生まれてこれてよかったということだ。小さい頃から家庭環境がすごくよかったというわけではないし、母とぶつかったりすることも多かったけれど、この環境で育ったからこそ、もののありがたさや支え合う大切さ、思いやりの心を知ることができた。私を誕生させてくれた父。陰でいつも支えてくれていた祖母と祖父。父親に代わって育ててくれていた母の兄。途中から父になると決断してくれた今の父。そして誰よりも私のことを一番に考え、弱さを見せず母親の愛情をたくさん注いでくれた母。だれ一人欠けても今の私にはなれなかった。だから私は、家族に精一杯感謝し、これからも生きていこう。

「幸せ」とは何だろうか。それは、互いに笑い合えることだと思う。私が塾から帰り玄関を開けると、「おかえり」と笑顔で迎えてくれる。父がいる。母がいる。私は、思いつきの笑顔で一日を終える。

特選

福山市立多治米小学校

2年 吉山 颯 祐



家族みんなで豆まき大会をして楽しかった

入 選

東広島市立下黒瀬小学校

1年 棚 田 心 希



ふたごのおとうといもうとのたんじょうび

東広島市立中黒瀬小学校

2年 前 濱 来 果



また来年、元気で会おうね。

広島市立山田小学校

3年 柳 川 陽 花



みんなできれいなちょうちょを見ました。

東広島市立寺西小学校

4年 尾 崎 柚 奈



私のかawaiiイトコ。去年より成長したね！

福山市立一ツ橋中学校

3年 鳥 越 秀 美



私と一緒にみんながいてくれることが幸せ。

平成29年度「家庭の日」作文・図画募集要綱

- 1 趣 旨 健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。
 青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。
 この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 2 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議
 4 後 援 広島県・広島県教育委員会
 5 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、(敬称略、順不同)
- 6 応募方法
 作 文 ・ 400字詰め原稿用紙3枚程度とします。
 ・ 縦書きとし、はっきりと書いてください。
 ・ 題の次に、学校名・学年・名前(ふりがな)を記入してください。
 図 画 ・ 作品は4つ切りの画用紙とします。
 ・ 画材は自由です。(クレパス、水彩絵の具等)
 ・ 裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。
 作品のコメントも忘れずに記載してください。
 注意事項 ・ 一人1点に限ります。
 ・ 本人の作品で未発表のものに限ります。
 ・ 提出された作品は、返却しません。
 ・ 企業名や商号の入った作品は対象外となります。
 ・ 作成指導に当っては、作品に直接手を加えないようにお願いします。
 ・ 図画は送付時に丸めないでください。
- 7 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、各学年5名以内で応募してください。なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 8 応募締切 平成29年9月5日(火) 必着
 9 送 付 先 〒730-8511 広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内
 (公社) 青少年育成広島県民会議
 電話 082-513-2742/ F A X 082-511-2173
- 10 審査方法
 (1) 予備審査は作文のみとし、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員が行います。
 (2) 事前審査は作文のみとし、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
 (3) 作文・図画の審査会は、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社) 青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
- 11 表 彰 特選者は、青少年育成県民運動推進大会において、広島県知事賞の賞状及び賞品を授与します。入選者は、当県民会議会長賞の賞状及び賞品を後日送付します。
- 12 副 賞 特選者は、5万円の旅行券を贈ります。また、応募者全員に参加賞を送付しますので、必ず応募者の控えをお持ちください。
- 13 そ の 他 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や情報誌「はぐくむ」、機関紙「せとのあさ」に掲載するなど広く活用させていただきます。

審査員名簿及び審査要領

●作文の部審査員

藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
丹 孝子 広島市公立中学校長会副会長・広島県中学校教育研究会国語部会会長
石田 睦子 三次市教育委員会社会教育委員
沖見 広徳 広島県環境県民局県民活動課長
寺田 純子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事

●作文の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 3 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 上位 20 作品程度を選定する。

2 審査の方法

(1) 事前審査

- ・ 小学校低・高学年, 中学生の部をとおして, 「家庭の日」の理解度, 感銘度, 論題にそつた論旨, 論点の整理, 表現力, 文の構成等を審査する。
- ・ 評点は 10 段階評価とする。
- ・ 特選を 10 点満点とし, 小・中学生をとおして, 特選 3 作品を選定する。
- ・ 入選は上位 20 作品程度を選定する。
- ・ 学年ごとに平均して選定しなくても良い。

(2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し, 相互調整して特選, 入選を選定する。

●図画の部審査員

濱田 昭法 元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長
沖見 広徳 広島県環境県民局県民活動課長
藤崎 綾 広島県立美術館主任学芸員
河村 陽子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事

●図画の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 1 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 5 作品

2 審査の方法

- (1) 作品ごとに, 表現力, 構成力, 家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ, 審査員は 1 学年ごとに, 5 点ぐらい選定する。なお, 各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが, できれば小学校(低・中・高学年), 中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後, (2)で選んだ作品を全部並べ, その中から特選 1 点, 入選 5 点を協議により選定する。

平成29年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

小学校の部		作 文								図 画								応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	作・参加人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	図・参加人数		
1	呉市立宮原小学校	1	2			1		4	4							0	0	4	4
2	広島市立石内小学校	1			2	1	2	6	6	5	5	1	1	1		13	13	19	19
3	広島市立宇品小学校	1	3	5	3	5	4	21	21	5	2	5	5	4	4	25	25	46	46
4	広島市立大町小学校		1		2			3	3	5	2		3	2	1	13	15	16	18
5	広島市立亀山小学校							0	0	1						1	1	1	1
6	広島市立南観音小学校						1	1	1				1			1	1	2	2
7	広島市立牛田小学校		5	2	2	1		10	11	5	2	2	2			11	14	21	25
8	広島市立山田小学校			1		1	1	3	3	6	7	2	4		2	21	21	24	24
9	広島市立上温品小学校							0	0	1	1	2				4	4	4	4
10	広島市立翠町小学校		2	1				3	3	3	3	1				7	7	10	10
11	府中市立上下北小学校							0	0					1		1	1	1	1
12	広島市立頼町小学校					1	2	3	3	2	1			1		4	4	7	7
13	三次市立鴻河小学校		1					1	1		2					2	2	3	3
14	呉市立阿賀小学校				1			1	1							0	0	1	1
15	三原市立小泉小学校		1					1	1							0	0	1	1
16	三原市立西小学校		5					5	34							0	0	5	34
17	東広島市立三ツ城小学校			2	1	1	2	6	6	5	6	2	1	1	3	18	0	24	6
18	三原市立糸崎小学校	5	5	5				15	48							0	0	15	48
19	広島市立伴東小学校			1				1	1							0	0	1	1
20	三次市立作木小学校					1	1	1	1							0	0	1	1
21	福山市立坪生小学校					1	1	1	1							0	0	1	1
22	世羅町立世羅小学校		1		2			3	3	1						1	1	4	4
23	大崎上島町立木江小学校							0	0			3	1		1	5	5	5	5
24	熊野町立熊野第四小学校		1				2	3	7	4	4	5	5	2	1	21	40	24	47
25	広島市立口田東小学校		1					1	1	5	5	2	1	2		15	15	16	16
26	広島市立高須小学校		1		2		3	6	6	4	5	2	3	5	3	22	22	28	28
27	広島市立飯室小学校				1			1	1	1	1			1	1	4	4	5	5
28	広島市立楠那小学校			1				1	1	2	4		1			7	7	8	8
29	広島市立吉島東小学校				1			1	1		1	1	1			3	3	4	4
30	呉市立坪内小学校							0	0	2	1		1			4	4	4	4
31	呉市立荘山田小学校							0	0	1						1	1	1	1
32	呉市立昭和北小学校							0	0		2	1				3	3	3	3
33	竹原市立荘野小学校							0	0				1			1	1	1	1
34	竹原市立竹原西小学校	5	3	2	5	2	5	22	255		3	1				4	4	26	259
35	尾道市立向島中央小学校	5	2	5	5		5	22	45				1	2		3	3	25	48
36	府中町立府中南小学校							0	0	1	4					5	5	5	5
37	呉市立三坂地小学校			1				1	1	2	2					4	4	5	5
38	大崎上島町立大崎小学校							0	0			2			1	3	3	3	3
39	庄原市立高野小学校				1			1	1	1		1				2	2	3	3
40	尾道市立栗原小学校			1	4			5	6	2	1	3		1		7	7	12	13
41	福山市立春日小学校				5			5	6	5						5	5	10	11
42	福山市立西小学校							0	0	23	7					30	30	30	30
43	東広島市立入野小学校			4	3		2	9	9			1			1	2	2	11	11
44	東広島市立喜栄小学校							0	0					1		1	1	1	1
45	福山市立御幸小学校			1		5	4	10	33	3	1	2	1	1	3	11	11	21	44
46	福山市立多治米小学校			1		1		2	2	3	3	1	1			8	8	10	10
47	三次市みらさか小学校							0	0		1		1			2	2	2	2
48	東広島市立板城西小学校					1		1	1		2					2	2	3	3
49	東広島市立寺西小学校		5		1		1	7	8	5	3		5	1		14	28	21	36
50	熊野町立熊野第一小学校						1	1	1	2	2		1			5	5	6	6
51	東広島市立西条小学校	5	5	4	5	2	5	26	160	5	5	5	4		3	22	131	48	291
52	呉市立安登小学校					5	5	10	16	1						1	1	11	17
53	広島大学附属三原小学校	1			3		2	6	6							0	0	6	6
54	広島市立己斐小学校							0	0		1			1		2	2	2	2
55	廿日市市立平良小学校							0	0	5	1		1	1		8	8	8	8
56	東広島市立下黒瀬小学校							0	0	1		1	1			3	3	3	3
57	東広島市立高屋西小学校		5	5	5	1	1	17	22	5		1		1	2	9	9	26	31
58	東広島市立中黒瀬小学校							0	0	2	1					3	3	3	3
59	廿日市市立阿品山西小学校				1			1	1	2	2	1				5	5	6	6
60	東広島市立郷田小学校				1			1	1	1	1					2	2	3	3
61	竹原市立大乗小学校	6	1		1			8	8							0	0	8	8
62	三原市立木原小学校					4		4	4							0	0	4	4
63	北広島町立新庄小学校					1	5	6	6							0	0	6	6
64	東広島市立板城小学校						1	1	1				2	1	1	4	4	5	5
	合 計	30	50	42	57	33	56	268	762	127	94	48	49	30	27	375	504	643	1266

平成２９年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

中学校の部		作 文					図 画					応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	計	作・参加人数	1年	2年	3年	計	図・参加人数		
1	広島市立大洲中学校		1		1	1				0	0	1	1
2	広島市立中広中学校	5	3		8	105				0	0	8	105
3	呉市立郷原中学校	1			1	1				0	0	1	1
4	呉市立片山中学校		1		1	1				0	0	1	1
5	三原市立第二中学校	1	1	1	3	3				0	0	3	3
6	三原市立宮浦中学校	5			5	115				0	0	5	115
7	廿日市市立四季が丘中学校				0	0	1			1	2	1	2
8	広島市立宇品中学校				0	0	2	1		3	3	3	3
9	広島市立東原中学校	5	3	1	9	14				0	0	9	14
10	広島市立古田中学校	5	5	5	15	74				0	0	15	74
11	広島市立五月が丘中学校	2		1	3	3				0	0	3	3
12	広島市立戸山中学校	2			2	4				0	0	2	4
13	広島市立五日市中学校		2	4	6	6				0	0	6	6
14	呉市立音戸中学校	3	2	5	10	13				0	0	10	13
15	呉市立川尻中学校		1		1	1				0	0	1	1
16	呉市立横路中学校	5	5	5	15	24				0	0	15	24
17	呉市立両城中学校	1	1		2	2				0	0	2	2
18	東広島市立西条中学校	4	5	3	12	48				0	0	12	48
19	東広島市立松賀中学校		4	3	7	22				0	0	7	22
20	呉市立広中央中学校		5		5	9				0	0	5	9
21	広島市立牛田中学校	5	5	5	15	15		1		1	1	16	16
22	呉市立呉中央中学校	5	5	5	15	20				0	0	15	20
23	東広島市立磯松中学校	3	2		5	6				0	0	5	6
24	東広島市立安芸津中学校	1	1	2	4	13				0	0	4	13
25	三原市立大和中学校		2	3	5	24				0	0	5	24
26	三原市立幸崎中学校	3	3	3	9	9				0	0	9	9
27	廿日市市立野坂中学校	4	3	5	12	13				0	0	12	13
28	廿日市市立阿品台中学校	5	4	4	13	13				0	0	13	13
29	廿日市市立廿日市中学校	3	5		8	38				0	0	8	38
30	海田町立海田西中学校	2	5	5	12	33				0	0	12	33
31	坂町立坂中学校	3	4	3	10	10				0	0	10	10
32	福山市立済美中学校				0	0	4			4	10	4	10
33	安芸太田町立安芸太田中学校	2	3	2	7	14				0	0	7	14
34	安芸高田市立吉田中学校	4	4	5	13	60				0	0	13	60
35	福山市立一ツ橋中学校				0	0	3		2	5	5	5	5
36	広島市立三入中学校		5		5	17				0	0	5	17
37	広島市立可部中学校		5	5	10	16				0	0	10	16
38	広島市立瀬野川東中学校	5	3		8	8				0	0	8	8
39	三原市立第三中学校		1	1	2	2				0	0	2	2
40	海田町立海田中学校	5			5	19				0	0	5	19
41	熊野町立熊野東中学校		3		3	3				0	0	3	3
	合 計	89	102	76	267	779	10	2	2	14	21	281	800

— 発 行 —

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511広島市中区基町10番52号

広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742

FAX 082-511-2173

URL : <http://www.hiro-payd.or.jp/>

平成30(2018)年度 カレンダー

毎月第3日曜日は **家庭の日** です。

4月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

10月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

2019年 1月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

3月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30